

を出して左の船室豫約を頼んでやつた。十二月四日桑港出帆の天洋丸一等船室と十月廿五日ロンドン出發、米國ニューヨーク渡航の外國船の一等船室又は二等船室を申込みこと。三時頃より巴里郊外イシーに在るドレヤ會社を訪れた。少し取引のある香料會社である。主腦者と會談を遂げ、工場を大觀して辭去した。日本食料亭富士屋に行つて矢本君と夕食を共にした。殷賑雜鬧の市中を散歩して大巴里の夜景を一瞥した。十時頃ホテルに歸つて寢に就いた。花の巴里か戀の巴里か知らぬが、公園を通つても道を歩いてモエロとイツトとシークの瘴氣が温蒸して、到着第一夜から風俗壞亂の數々を注視せざるを得なかつた。

九月二十六日 木曜日 (晴 天)

朝七時起床して身支度を整へ、朝の祈禱禮拜を獨りですまし、朝食後は記録や會計事務に時を費し、ポーション氏に電報で巴里到着を通知し、ヂヤスチン會社に電話して來着を報じた。

十時頃から市中觀光を兼ねてシリス會社を訪問したが、此處は巴里の出張事務所に止まり、別に商談も要談もなく、稻畑商店の御紹介狀を以て敬意を表したまでであつて、社員が町重に應接されて用事があつたら何でも申出られたいと好意を示された。

名物の魚料理、食道樂の料理臺を圍んで立食をする通人の行く店に、矢本君に伴れられて中食を

した。

蝦、貝、蟹、いがいのスーブの巴里の町としては頗る變つた魚料理を、日本でやるやうに満員の客の中で肩押し並べ膝突き合せて美味しく食べた。

エツフェル塔

三時頃巴里名物の隨一、高さ一千尺空に聳ゆるエツフェル塔に登つて巴里市街を一眸に納めた。パーヅアイ高處の鳥瞰は旅行には能率が良いと見えて、毎日幾千人の人が引き上げられて居る。此の高塔へのイルミネーションの廣告は大したものだが、シトレーンとかいふ自動車會社の獨占である。天王寺通天閣のライオン齒齋廣告の比にあらざること勿論である。今一つ名物とまではいはいれまいが、公園の廣場で子供の守りをして山羊に乳母車を曳かして、子供と一緒に母親や子守女達が遊んで居る。其處へ小さい舞臺が在つて、日本の紙芝居見たやうに小さい人形を指先で使つて、オドケ芝居を演じて子供大供を一樣に笑はして居る。吾々も、ロハで大分笑はして貰つた。子供、子守、母親博覽會とも見られて面白かつた。常盤といふ日本料理屋に行つて夕食を済ました。

ヂヤスチン會社よりムネア支配人がホテルに來訪されて歓迎の意を表されて、明日からの日程を提供協議された。

ヂヤスチン香料會社

九月二十七日 金曜日 (晴 天)

朝早く起きて身支度朝拜例の如く、心身共に元氣に満ちて事務整理、書信に時を送り、十時からヂヤスチン會社からの迎車に乗つて、使者ムネーア氏と共にヂヤスチン會社を訪れた。副社長ヂューボン氏や幹部社員技師總出で歓迎快談を受けた。正午迄に工場參觀と取引上の要談をすまして、記念撮影などして一先づ辭去した。日本人會館に行つて知人の住所を調べ晝飯を攝つた。二時頃から市中見物、買物などしてロダンの作品展覽會場を見た。裸形、裸婦の彫刻物の多いのには驚いた。審美藝術か尖端作品か知らぬが、東洋人の美術觀賞基調と西洋人のそれとが大分異つて居るやうに思ふ程私には西洋美術が解らぬ。日本ならば風紀を亂すやうな作品が無數に陳列してあるので言語ロダンといふより外にない。ナポレオンの墓に詣でて、多數の參詣人の中に交つて大英雄の跡を弔ふた。夜はホテルで夕食をすまして八時半から大劇場に行つた。スカラーの大一座の絢爛豪華なる演出を見た。大懸り、大仕掛、衣裳の美、舞臺の光彩と相俟つてダンスの氾濫、巴里美人のオンパレードの莊美艷麗は世界の田舎者の陶醉懽殺に値するといはんか、さすがに世界一の遊里、

花の巴里と肯かれる。おまけにこんな大劇場で地階のホールでは、アラビヤ美人の尻振ダンスに、蛇に體を卷かして踊る見世物的なエログロまで餘興を添へてある。十二時過ぎに果て疲れてホテルに歸つた。

九月二十八日 土曜日 (晴 天)

巴里のインターナショナルホテルを根城として居心地よく毎日元氣に満ちて、觀光や要務に出歩いて居るが、まだ巴里に来て四日しかならぬ。町の勝手もわかり人にも馴れて心安く走り廻ることが出来て嬉しい。昨夜來泊した日本人某、隣室で食事のことで言葉が通ぜず困つて居るのに、怪しいフランス語で助け船を出して先達顔が出来たのも嬉しいことであつた。

九時頃から有名な百貨店に出掛けて見物や買物をしたが、規模の大きいこと内容品の豊富なこと品物が凡て上品で垢ぬけがして居るやうに見へた。化粧品などは内容實質は兎も角、外觀や體裁等が一見して優良らしく好もしく見へる。之は包裝仕立の印刷、色彩、意匠等の技術が日本のそれと遙に優秀である爲ではないかと思ふた。尙ほ化粧品などは大體に於て香料が生命になつて居るやうで、需要者の香覺が高いから高價な優佳な賦香が出来て居る。巴里の町の目貫きの通に香水専門の小賣屋や問屋が散在して居るのは、外の國では見られぬ圖である。慥に巴里は世界の花の巴里、香

の町といふことが出来る。

ナポレオン離宮

午後二時ホテルに歸るとヂヤستن社のムネーア氏がドライブ行遊の爲に自動車で迎ひに來られた。

早速同乗して郊外三十哩程の地點に在るナポレオンの離宮見物に走つた。

並木道路の奇麗さ、野外風景の珍らしさ、森林の自然美、都塵を避けて清新の氣を養ふに足るものがある。

離宮は廢墟でも殘骸でもない。莊麗豪華な自然と人工の絢爛が今尙ほ昔日の榮華を語つて居るが主なき宮、今は徒らに世界萬人の訪ふがまゝにナポレオン王朝の過ぎにし榮華を語るのみである。

ナポレオン第一世以來歴代の離宮だけあつて、庭園の宏莊、殿堂の完璧、調度の華麗は大したものである。

ベルサイユ宮殿程の規模の豪華はないが、大ナポレオンが親しく常住座臥の實際居住の跡が有りなまゝ残つて居るので、人を索き附けるものがある。

この町の喫茶店で三人で一服して居ると、そこへ新郎新婦同伴の客が四五人這入つて來た。する

とムネーア君がツト立つて挨拶をして居るから後で知己かと尋ねると、全く未知の人であるに不拘こんな時は必ず祝意を表するのが風習であると答へられた。

往來で葬式の行列に遭ふと脱帽して弔意を表し、時としては行列に加はる習慣さへあると見聞したが、日本人の習慣とは大に異つて居る。

葬列などに出會ふと不吉だと云つて弔意どころか呪ふやうな氣持をしたり、汽車や電車で花嫁姿でも見たら妙な目附で見世物扱にして恥かしめたりする。何時ぞや阪急電車の人込の車中で、角隠しして恥しがつて坐つて居る田舎風の花嫁の隣に坐つて居る大阪の町の長屋のおかみとも見える四十女が、花嫁の着物や帯を見詰めて、果ては袂を引き上げて連れの女と冷視して居る無禮千萬な仕打を見て、その前に立つて居た私はたまりかねて、其の横着者の足元を蹴つてやつたことがあるがこんな事は前に書いた動物愛護と共に日本人は外人に學ぶべきであると思ふ。

七時過ぎ頃市中に歸つてヂヤستن氏の招待で、町の有名な料理屋で晚餐の饗を受けた。自分と矢本君とムネーア氏とヂヤستن氏と四人で、極めて打ち解けて心安く親睦懇談の間に佛蘭西料理を満腹満喫した。果してから夜の巴里を歩いてホテルに歸つて休んだ。

九月廿九日 日曜日 (晴 天)

朝五時半起床して朝拜祈禱をすまし、文書事務に小時間を費し、今日の日程に入る身支度をなす。今日はヂヤスチン會社のヂューボン社長と戦跡ヴェルダン見物の爲一晚泊りでドライブすることになつて居る。九時頃ヂューボン氏が高級自用車でホテルに迎ひに來られた。

通譯矢本君を伴ひ同乗してヴェルダンに向つた。

平野廣く連り、坦々たる美しい並木道路を百哩の高速で疾走するのである。「道はローマに通ずる」の代りに「道は巴里に通ずる」とも云ひ得らるゝ、舊跡豊かなる中欧普佛を貫くハイウエーを長驅することは、和蘭、瑞西のドライブにも増して興味深き思ひ出の旅であつた。途中シヤンペンの名産地アーンズで晝食を攝つた。灘の生一本以上の甘露であらうが下戸の悲しさ、味は解らぬ。日曜安息日で沿道の町々はお祭の様に入出で賑つて居る。

とある村外れの野道で一人停んで居る日本人を見付けた。スピードかけた車をストップさせて、下りるや二丁餘り一目散にその日本人に向つて帽子を振りながら駆け附けた。車中からチラツと眼に影じた其姿は違はなかつた。其日本人こそ誰あらう、私より數ヶ月前に洋行の旅に出た同じ蘆屋の近所に住む知友、武長商店の森本寛三郎君である。奇遇を喜び物語りは盡きなかつた。同君はロンドン滞在中飛行機で巴里に來て、今日はヴェルダン見物を済まして歸り道の此處で、自動車がバンクして巴里から迎ひ車の來るのを待つて居る處だとの事。歸路と往路だから一緒に乗せて同行す

ることならず、野の中で記念撮影をして再會を期して別れた。

「人の行衛と水の流れ」といふが、廣い世界を飛び廻つて居て同じ芦屋の村人とフランスの野道で巡り會つたのだ。昔の敵討や朝顔日記の物語も思ひ出されて面白い。敵でも戀人でもないが――終日ドライブを楽しみてヴェルダンに到着したのは夕七時頃であつた。夕食前に暗い町を散歩してノゾキや映畫によつてヴェルダン攻防苦戦當時の慘狀を具さに知つた。

ヴェルダン

九月三十日 月曜日 (晴 天)

ヴェルダン、ホテルでヂューボン氏、矢本君、運轉手君と共に昨夜一泊した。此處には戦跡見學に來る旅客が年中絶へず大賑ひである。

九時から要塞の跡や攻防堡壘の現地見物に出掛けた。

菊花の花束を買つて無名戦死者の墓前に捧げた。

當時の攻防、戦略實狀を軍人上りの案内者によりて悉しく説明を受けた。死力を盡して攻めた獨逸軍が七、八分迄勝を占めながら不思議にも最後に敗れて退却したのは、東から攻むる戦略を變へ

て西に廻つた爲だと單純に結論の一節を聞いたから、太陽に向つて攻むることの不利、目を負ふて敵を見ることが對敵兵法上の要諦で、我が神武東征のことなどを語つて喜ばしてやつた。

砦の跡や惡戰苦闘の陣地や博物館や記念塔等を順次見物を遂げて、正午ホテルに歸つて中食した。午後二時出發し、路を變へて歸路に就いた。途中ナポレオン第一世の古戰場や大本營跡さてはジャンダークの記念銅像等を見物して輝く史實や、野外農村の異國情景を面白く見聞して、夕刻七時巴里に歸り、ホテルまで送つて貰つてデューボン氏と別れた。

牡丹屋といふ日本料理屋に行つて矢本君と夕食を共にした。

此處で滿鐵の藤山一雄氏と面會して聖地旅行をしてパレスタイン地方のユダヤ人虐殺の實況を見て來たとの話を聞いた。二ヶ月早く聖地旅行を済まして、我々は身に迫る危険を知らずしてよかつたのである。

十月一日 火曜日 (雨 天)

朝七時起床巴里のインターナショナルホテルで、身心強健にて清新の氣に満ちて朝拜祈禱を捧げた。

デューボン氏に電話して三日の晚餐會招待のお請け返事をした。

ロンドンの日本郵船會社吉川君に電報して井口君夫婦の渡米の船をマゼスチック號にし、歸路の太平洋を天洋丸にし、私の船をモレタニヤと天洋丸にするやう豫約申込をした。

荷物の整理や緊急事務に時を費した。

正午牡丹屋に行つて矢本君と日本料理の中食を攝つた。

佐藤海軍大佐御夫妻を官舎に訪問して、鹿島丸で別れてからの挨拶及び井口君夫婦への御厚遇と御世話を深く謝した。

三井物産に同窓伊藤彌三吉君を訪問して懇談した。四日の夜同君の私宅に夕食に招かるゝことを諾した。

ダイヤモンド仲買集合所に行つて其取引振を覗いて見た。薄汚ないカフェーの卓子の上で何萬圓の商談が出來ると云ふが、物は道によりて賢しと云ふが大したものである。

禿かくしのかつらが巴里は本場らしいので、國への土産笑草にせんと製造屋に飛び込んで頭の寸法を取らせ、地毛と色合を合はして一個誂へた。男女共に需要が多いかしてよく流行つて居る。日本にも其内一つの商買として出現するだらう。

夕食は名物の魚料理屋に行つてイガイのスープを巴里の食道樂の通人と肩を並べて啜つた。

大劇場に活動寫眞を一寸覗いてダンス場に行つて見た。男女入り亂れて盛に踊つて居る。足を上

げてはね廻り飛び廻つて居る。ダンスの本場か知らぬが下品なものにしか見へぬ。日本舞踊のやうに衣裳や顔の美を見せるよりも、肉體そのもの、美と艶を公開放散するのだから、エロ氣分が強く漂ふて、優佳な清楚な藝術味など少しも味へない。此點に於て白色人は有色人より遙に劣等な性情の持主だ。ともかくにも巴里といふ處は恐ろしい人を喰つた處、白く塗つた墓場のやうな處、今の世のボンベ、ソドムゴムラの類ではあるまいか。野暮で下戸の私にさへそう見へる。否粹な上戸黨には天國に見へるだらう。

十時半頃ホテルに歸つて良く眠つた。

十月二日 水曜日 (雨 天)

昨夕井口君夫婦が瑞西から巴里に着いた。ハムブルグの病院で養生をして病氣が治つてハムブルグを一昨日立ち、途中瑞西のロザーンに一泊して無事巴里に歸り着いたのである。

二人は最初マルセーユから直行して佐藤大佐御夫婦と共に巴里入りをして、既に伊太利に下る前に一ヶ月近くも巴里に滞在して、私よりお先に巴里通になつて居るのである。

佐藤氏の御好意で病後の安静を期する爲に、井口夫婦は出發迄佐藤邸に宿泊、起臥することを勧められ、有難くお言葉に従ふことに定めた。

大阪に電報して十月八日迄巴里に居る。井口全快した安心せよと知らした。日佛銀行に行つて金五百圓を佛貨五九七三、五〇フランで信用状から引出した。百貨店に行つて土産物を買つたが、品物の選定には大に悩まされた。

ムネーヤ氏が來訪されたので、取引上其他の要件に就いて懇談協議を遂げた。ロンドンの吉川君から汽船決定の通知が來た。矢本、秋元兩君を伴れて日本人會館に行つて夕食を共にした。大雨が降つたが旅行中初めて雨に降り込められた經驗である。球撞きなどして二時間ばかり遊んでホテルに歸つた。

知巳播磨喜三郎君の巴里行遊、日本人旅客としては豪勢の發展振の噂を耳にして嬉しいやら驚くやらであつた。

十月三日 木曜日 (雨 天)

朝五時起床して朝拜祈禱心身の備へをした。

今日ロンドンから米國に向つて船出する江藤さんに電報を打つた。

「ボンボヤーヂ、本月九日巴里よりロンドンに行く、美也子退院した安心せよ」
日本の劍友諸士十數名に繪葉書短信を送つた。

十時頃ムネーヤ氏の來迎を受けてバカラ會社のガラス瓶視察に行つた。

見本瓶、食器、菓子器等三百圓ばかりの買物をした。

中食後巴里の最大名所ルーブルの博物館を參觀。豊富で豪華な陳列品を三時間程で走り廻つて大觀した。三日や五日で見盡せぬ位の内容であるが、我々には其時間がない。

七時半から矢本通譯を伴ひ、井口夫婦同道でデューボン氏の私宅へ晚餐會に行つた。井口君はタキシード、美也さんは美しい日本服を着、私は今日仕立上げの新調背廣で済ました。美也さんの日本服装がとても美しいので、先方の婦人達が大喜びであつた。主客親しく打ち寛ろいで談笑し、フランス料理の山海の珍味の饗に與つた。

十時頃辭去、自用車でホテルまで送つて貰つた。

十月四日 金曜日 (晴 天)

朝六時起床して聖書を読み、祈禱を熱心に捧げた。

米國紐育の同窓親友大津賀宅次君とロンドンの同窓吉川庄市君に書信を發した。

井口君夫婦と矢本君と四人同道で市中に散歩して、百貨店で買物をしたり中食をした。

午後二時ロイヤル、パレース、ホテルにポーシユ氏を訪問した。同氏は日本に一二度來て取引上

親しい中であり、夫人も日本で會つて居るフランス麗人で心安い間柄であるから、二人とも非常に喜んで應接され二時間ばかり懇談した。七日に晚餐を共にすることを約して別れた。

午後七時半から三井物産の伊藤君の私宅に晚餐に招かれた。夫人のお手料理の御馳走に與つた。十一時頃まで懇談してホテルに歸つた。

白耳義アントワープ

十月五日 土曜日 (曇 天)

今日は白耳義觀光の豫定であるから早起して支度を急ぎ、井口君と矢本君と三人同道で九時頃の汽車で巴里を出發した。

車中水入らずで愉快に談笑して、四時間ばかりを費してブラッセルに下車した。市中を横切つて別な停車場に出てアントワープに向つた。沿道で、大戦に荒されて、新築家屋の多いのが目についた。石炭坑が多いのか石炭の堆積山の如く、ピラミットの如く見えるものが澤山あつて寧ろ殺風景である。

ウォータルローの古戰場を車窓から眺めつゝ三時過にアントワープに着いた。早速カソリックの

大寺院を見たが、入口に便所があつたのが變に思はれた。歴史を語る古物陳列館を一見した。アントワープの運河のやうな河に發動機のコト／＼ボートを走らして河港の風景を見た。日本人の畑中と云ふ親分がやつてゐる小料理屋で牛肉のすきやきを食べた。下等船員の出入する低級なカフェー見たやうな店に、どう間違つたか這入つたのだが、日本料理屋と云ふのと、牛すきが食べて見たかつた爲らしい。酔拂ひの立ち廻りまで見せられて不愉快だつた。服部といふ八百屋をして居る青年同胞が親切によくサービスしてくれたのは嬉しかった。

クキンスホテルといふのに三人同宿した。風呂に入つて疲れを休め、二十數通の繪葉書を書いて日本に送つた。

井口、矢本兩君は町に遊びに出て行つた。

十月六日 日曜日 (曇 天)

アントワープのクキンスホテルで朝五時に起きて聖書を読み、祈禱を捧げ朝の勤めに専念した。九時にホテルを出て尙市中を見物し海岸を散歩して停車場に行きブラッセルに戻つた。

ブラッセルとウオタルロー

宮殿、大寺院、控訴院、公園、日本式五重塔、有名なジョンベン小僧(王子)の模像などを走り見物を済まして、正午過自動車でウオタルローの古戦場に行つた。二十分程の道である。

記念岡に獅子の大像が立つて居る。二二六段ある石段を丘上に登つて四方を展望すると、一面の大平野である。日本の天王山や關ヶ原を思はしむる何ものもない。見渡す限り平凡なる野外の村落民家の點々するばかりである。雨中に立つて暫く展望して下り、附近の小亭で中食をした。

指さして興亡語る丘の上に

秋 風 寒 う 村 雨 の 行 く

四時の汽車に時間があるのでブラッセルに歸つて博物館を見た。

巴里へ歸る汽車の同室で、外人男女一對が乗り合はして、人目憚からず我々の目前で盛に無禮を演ずるので、同席に堪へず、文句は云へず、他室へ逃げ出すのも癪であるから窓を開けて、大聲で安來節の一節を怒鳴つて見たら、當意即妙の戦術効を奏して敵はホウ／＼の體で逃げて行つた。人前で散々にイチヤツクが無禮か、窓から風を入れて唄を流すが無禮か、讀者の判断に任せろ。

七時半頃巴里に歸つて驛前の料亭で夕食を済ましてから、井口、矢本兩君に誘はれて寄席に二輪加式芝居を見に行つた。念の入つて井口君は佐藤邸に走つて美也さんまで引張つて來た。

小さい劇場に満員の有様であるが、筋書や演出所作が全く成つて居ない。エロとグロが卍字巴に

極端に織り込まれて、言葉の判らぬ我々が所作だけ見て嘔吐悪寒を催す様な内容である。
こんなものを見て喜ぶのは男女の観客悉く變態性病に罹つて居ると云はれても仕方がない。
文明人ほどこの病氣に罹り易いのでないかしらん。「この點日本人は決して紅毛人を眞似てはな
らぬ」と斷言したい。

十月七日 月曜日 (曇 天)

今日は靜にホテルに休養しつつ荷物の整理をした。十二時からポーシユ氏夫妻に招かれて、一流
のレストランに矢本君同道罷り出でて中餐を饗せられた。

食後取引商談の要件を片附けた。

三時頃夫妻に別れて市中を買物に歩いた。

牡丹屋で日本料理の夕食を済まして大劇場にオペラを観に行つた。

劇場内部の裝飾、道具立の華美にはさすがに世界一の本場だけあつて大したものである。

「ロメオとジュリエット」が演出ものであつたが、音楽、美粧共に其莊麗には驚かされた。それ
から舞臺の上に劣らず観客席や廊下に、美裝、清麗玉の如き美人が雲の如く參差逍遙して居るポー
ズは、巴里ならではと思はせられた。

二時間ばかり居てホテルに歸り、遊樂のうめ合はせに一時頃迄かゝつて荷物の整理や事務を片附
けた。

ヴェルサイユ

十月八日 火曜日 (曇 天)

今日の日程は巴里郊外ヴェルサイユ宮殿見物である。九時半頃自動車で電車乗場ボンドアルマ橋
畔に行き、川邊の風景を撮影し、電車でセフランの電車賃三十分程でヴェルサイユに着いた。

先づ規模の宏大、建築の豪壯に目を驚かす。公園や庭園は泰西式に完備して清麗そのものである
殿内王宮の華美、各ホールの完璧は歴代ナポレオン朝の榮華、大フランス國の富を語りて餘す所
がないといへやう。

小雨に降り込められて、却て靜かに殿内隈なく參觀した。實に善美言語に絶するばかりであるが
變骨者の私にはこんな人工輪奐の絢爛を見るよりも、エジプトの砂漠をドライブしたり、アフリカ
の原始的曠野を車窓に眺むる方が餘程愉快であつて、遂に興味をそそるのである。

餘りの見事さに見物疲れを感じつつ、又電車で巴里に歸り、とある支那飯屋に這入つて支那學生の

多い中に交つて久しぶりに支那料理を食べた。

レキサンブルの公園を散歩して面白いものを撮影した。クルエー博物館に這入つて歴史的珍物を見た中に、有名な貞操帯なるものを見落さなかつた。パンテオンの墓場にも行つて見た。

三井物産に伊藤彌三吉君を訪問して挨拶をした。ポーシュ氏をロイヤルパレスホテルに訪れて暫く懇談した。キュルイ公園を同氏夫妻と共に散歩して記念撮影などして、此處でお別れの握手をした。

嘗て同氏が神戸のトリアホテルで大病に罹り、妻君が青くなつて居る時に飛んで行つて親しく見舞つて慰めてやつたこともあつたが、今巴里で相會つて舊交を温ため、袂別に際しては互に名残惜しさが胸一杯である。それから日佛銀行に行つて金五百圓を佛貨五九五八、五〇フランに替へて引出した。

ホテルに歸るとヂヤスチン會社のムネーア君が來訪されたので、約束により自動車で市中の香料品屋に走り、其處の化粧術のマダム先生に化粧美顔法に就き一時間ばかり話を聞いた。これも香料の商人なればこそと自ら微苦笑を禁じなかつた。

それが済んで巴里訪問主要第一の要件たるヂヤスチン會社の事務所を訪れた。ロール、ベルトランド、ヂヤスチン、ヂュボンの大會社々長ロオー氏が、瑞西の避暑地から私に會見の爲巴里に歸つた

といふので今夕會談するのである。

會見一時間餘りで取引上の要談を遂げ、幸に通譯入りながらも互に充分に諒解、解決の鍵を交換して別れることが出来た。

日本出發以來、觀光、遊覽、見學に十二分の能率を擧げ得たことを自認して感謝感激で腹一杯だが、今夕の會見こそは、何より大きな國への土産を齎らして、其れ以上に嬉しいものであつた。

「神様は日々の祈りを聽いて下さつた」と只感謝の外はない。實に難有い事である。

晩 餐 會

今夕七時半巴里のシャンゼリゼー角のベリーといふ一流料亭で、ロオー社長に招待されて晚餐會に出席した。矢本通譯を伴れて私が正客である。主人側ロオー氏、ムネーア氏、接伴役は既に心安いヂュボン氏と麗人マダム紅一點である。

主客一同胸襟を開いて懇親と美餐を満喫した。狂歌に偶して謝意を表し、一同を笑はした。

エイコトをマダムいたゞく嬉しさよ

ムネーアにヂュボン　ロオーとこたへて

永廣堂をまたもいたゞく嬉しさよ

胸に十分 宰とこたへて

十月九日 水曜日 (曇 天)

巴里のインターナショナル、ホテルで朝六時起床して、靜に朝拜祈禱を勤め、朝食後荷物整理をした。

今日は巴里を出發するので、去る八月五日マルセーユ上陸以來二ヶ月餘り隨伴同行せる矢本君と別れるのである。カソリツク信徒なる同君を別室から招いて、靜座聖別共に平安なる旅行遂行に就て、誠心こめて神様に感謝の祈禱を捧げた。

出發前公使館、佐藤市郎大佐を訪れて御禮に行く筈であつたが、時間が切迫したので止めて直に停車場に行つた。

井口君夫婦は佐藤邸から停車場に出るのである。十時の汽車でロンドンに向つて、カレール港に行くのである。停車場にはロオー氏、ムネーア氏、ヂューボン氏、マダム、ムネーア氏子息三人と佐藤大佐御夫婦が見送りに來て下さつた。

御一同に別れを告げて、午前十時巴里を井口夫婦と同伴して出發した。

昨夜の御馳走が過ぎて少々胃痛を覺ゆるが大したことはない。過食は慎まねばならぬ。絶食するほどのこともない。汽車中で晝食して三時間程でカレール港に着いた。

ドバー海峡

此處からドバー海峡を連絡汽船で渡つて對岸の英國ドバー港に行くのである。海峡の波高く、船小さくして動搖大きくて、船酔ふ人が多いやうである。飛行機が頭上に現はれて五分間程で影を沒した。巴里からロンドンまで一飛びである。私は母との約束言ひ付「飛行機だけは乗るな」を守つて居る。

一時間ばかりでドバー港に着き汽車に連絡するのである。國境だから税關が面倒だといふことであるが、幸に私のトランク二つ三つは調べもせずパスして貰つた。

一等車に三人乗り込んでロンドンに向け勇むのである。相客無く借切りの形で、打ち寛いで心安く愉快に二時間程を走る。青草の牧場に羊や馬牛の放牧が美しく和やかに見ゆる。

ロンドン

薄暮六時頃ロンドンのヴィクトリア停車場に着いた。初入りのロンドンながら、懐かしいやうな

自分の國にでも歸つたやうな氣持で一杯である。凡て目に觸れる文字が英語、耳に響く行人の語ひが英語、町の氣分が鈍調で落着きを與へる。

歐洲の各國からロンドンに這入ると、日本人の誰もが第一に感ずる印象であるらしい。

ポーター、タクシーなど順序よく運んで、三人連れのお上りさん無事安全にデンマーク街の常盤ホテルに投宿した。

幸にも廣い部屋を一人で占領することが出来て、ロンドン観光の本據とすることが出来るのである。

十月十日 木曜日 (晴 天)

巴里の敵を倫敦で打たれる譯か。巴里の御馳走が崇つて食過ぎ胃痛がまだ治らぬ。いつにない今朝は十時頃までベッドを離れず休養した。お粥を少し食べて腹を作つて、十一時頃から三人で市中に出掛けた。

常盤ホテルは日本人經營で岩崎といふ紀州新宮の人で、雇人が皆同胞で日本人専門のホテルで、前の家で日本食堂も營んで居る。

お粥も炊いて呉れる。靴下のつすくりまで女中がして呉れる心安さが何よりだ。

日本郵船會社に行つて吉川君に會つて懇談、米國行の船室や旅券の取極めをした。

井口君夫妻は先行して十月十六日に巨船マゼスチック號にて、私は一人十月廿六日にモレタニヤ號に乗ることに定めた。

トーマスクック社に行つて郵便物を受取つた。日本からの手紙を澤山入手して、國の便り一同の安全無事を知つて嬉しかった。

常盤食堂で日本食の中食を井口兩人と卓を圍んだが、用心の絶食で傍觀で済ました。

伊庭梅花校長が常盤ホテルに偶然來泊されたので、大阪で一別以來の積る話で長時間を費した。

伊庭氏と夕食の卓を圍んだが、不相變絶食で少しばかり手をつけた。それでも元氣で市中散歩に出た。

街路は行人織るが如しで、イルミネーション輝く盛り場の光景は、ベルリンもパリもロンドンも似つたり寄つたり大した相違はなく、銀ブラ、心ブラ、浅草、千日前と大同小異で、異ふのは人間の目鼻と着物と言葉である。一つ目や三つ口の化物も居ない。老若男女が入り亂れ行き交はして眼、耳、鼻、舌、身、意の六感五慾の猿や馬と同行して居るのである。

山高帽子の多いのが目につく。之は葬式や婚禮の禮帽といふよりロンドンでは雨傘、日除けの役目がお多分といふ。

衣裳や風采がジミで巴里ほどハデで明るくないやう見へる。
バジヤマ、靴下、手袋、ネクタイ、齒磨などの買物をして歸つた。ロンドンでは英語の町、何處へ
でも獨り歩きの出来ることが嬉しい。

九時頃一人靜かに感謝祈禱を捧げて就床した。

十月十一日 金曜日 (晴 天)

今朝も胃痛がまだ全治せぬが勇氣を鼓して外出した。

星野宏君といふ在留邦人をガイドに頼んで、ロンドンのアウトラインを知るべく同君の小型自動
車で走り廻つた。

宮殿、諸官衙、記念塔、博物館、ハイドパーク、音楽堂等々を見物した。

ブツシユ香料會社

それから英國の代表的香料會社ブツシユ會社を訪れた。

四十年前から父が率先して香料取引を開始した舊好深き店である。年々日本にやつて來るライス
氏は生憎日本に行つて不在であつた。

ジェームス、ブツシユ氏が快く會見して一時間ばかり對談した。更に月曜日再會を約して辭した
有名なるチームス河のロンドン橋の開閉、汽船の通過光景をフィルムに納めた。

夕刻ホテルに歸つて至極便利な常盤食堂で夕食をした。スエズで別れた鹿島丸同船の市瀬君と會
つて懇談した。

オックスフォード、スクエアに在るトルコ風呂に行つた。之は完備せる蒸風呂専門である。旅の
疲れを醫するには最適、もつてこいである。

ホテルで夜一時頃まで手紙を書いた。エハガキも四十枚書いて出した。

十月十二日 土曜日 (晴 天)

朝六時起床して元氣に身支度を済まし、聖書馬可傳二十三章を読み朝拜祈禱を守つた。

十時頃迄事務を片付け、朝食を試みたが胃痛も全治したやうだ。

星野君を伴ひ市中に出掛けた。

横濱正金銀行支店に行つて邦貨千五百圓を英貨一四六磅一〇志で信用狀から引出した。

三井物産に行つて同窓宮本邦雄君と武島節夫君に會つて快談した。

常盤食堂支店に這入つて中食して居たら、郵船會社の吉川君と出喰はした。ロンドンでは日本の延

長だと喝破して一同を笑はした。

セントポール寺院を見物し、高塔に登つて市中を展望した。

バーリアメント即ち上院、下院を參觀して、茶目氣分豊かに議席に就いて圓卓會議を眞似た。

キユウガーデンに車を飛ばして、心ゆくばかり廣潤宏莊なる公園の自然美、千紫萬紅を賞して生命の洗濯が出来た。

ホテルに歸つてかしの鋤焼をした。伊庭校長、井口君夫妻、星野君の四人と一緒である。

伊庭校長は世界教育會議に出席を済まして、既にロンドンには一ヶ月以上滞在して私が後から到着したので、他のホテルから常盤ホテルの連れの多い方へ轉居されたのである。食後、伊庭校長と一時間ばかり市中散歩を試みた。この處梅花校の理事二人がロンドンのピカデリーをぶらついて居るのであるが、更に一ヶ月後れて日本を出發した同理事加藤小太郎氏が、近く米國から來て落ち合ふのである。

去る六月大阪堂ビルホテルで此三理事を、梅花校理事幹部一團が洋行の送別會を一緒に開いて送られたのだが、而も偶然にここで顔が會ふ。旅程も要事も各異なる三人が、ロンドンで同じ宿で泊り合はずとは廣い世界も案外狭いもの、悪いことは出来ぬものと思はせられる。

十月十三日 日曜日 (曇 天)

朝十時頃迄部屋に籠りて聖書を読み祈禱を捧ぐ。

十一時に伊庭校長と井口君夫婦と同道でシチーテンプルに行つて禮拜に参加した。英國組合教會の理事長をして居らるるノルウッド博士といふ大牧師の説教を聞いた。ハーヴェスト感謝祭の直後の集會で、會堂の飾り附けが残つて居る。

「高尚なる満足」といふ題でサマリヤの女とキリストの問答を引いて話された。

コワイヤ合唱の整備鍊達はさすがに本場であると感じた。

閉會後米國人の老紳士夫妻に心安く話しかけられて其親切に驚かされた。伊庭校長は先に牧師と知り合ひになつて居られたので、後で伊庭氏から牧師に紹介されて握手した。

日曜安息日の市中の靜肅さには實に感心した。午後は靜にホテルで休養した。

夜は例の四人でピカデリー、サーカスを散歩した。ホテルに歸つて一時頃迄手紙を書いた。

日本の家族、親戚、知己、友人に丹念に通信を續くる上に、旅行先々でお世話になつた知己への通信が加はつて行くので、手紙書きはだん／＼大きな仕事になつて來るのである。

十月十四日 月曜日 (晴 天)

朝の勤め例に由つて例の如く、事務少時にして外出井口君を伴れて郵船會社に行き、井口君二人のマゼスチック號汽船切符を吉川君の手續を受けて買取つた。日本に歸る半分途大西洋を渡る切符である。

領事館に行つて小學竹馬の友内田寛一君の住所を調べて其下宿を訪ねたが、留學の期満ちて既に歸朝の途に就いた後で残念であつた。

午後二時半ブツシュ會社から迎への自動車が來たので、井口君夫婦と星野君と同道で工場地帯に在るブツシュ會社に行つた。

老ブツシュ氏、若ブツシュ氏、工場長、事務長達總出で歓迎された。

井口夫婦はライオン小林商店の紹介狀がブツシュの香料得意先たる特權となつて、慇懃なる接待を受けた譯である。工場の作業状態を逐一參觀した。香料製造のみに止らず、亞弗利加や印度に輸出する或る種の化粧品も造つて居るやうである。

食堂に招ぜられて一同茶菓を饗せられつゝ懇談した。此處でも語學の不鍊達を痛切に感じた。

英語と佛語に充分堪能であつたら、洋行の成果歡興更に深厚なりしものと思はせられた。

老ブツシュ氏はロシアの商買で大損をしたとか、極東滿洲問題の將來と日本人の態度などに就き話題を出されて思ふやうに應答が出来なかつた。

老ブツシュ氏の自用車に同乗して、同方向に歸る同氏にホテルまで送られた。晚餐の案内も受けたがお断りした。夜は常盤ホテルで靜かに休養した。

十月十五日 火曜日 (晴 天)

今晚井口夫妻が伊庭さんと共に米國に向け出發するので、朝から二人の出發準備に何やかやと手傳ひをした。

十一時頃から阿座上商店の主婦と其英人女中とを同伴して、ネクタイの卸問屋と百貨店に行つて買物をした。ロンドン土産にネクタイを日本に持つて歸る爲に、製造問屋に行つて恰好の柄の生地を見て製作を誂へて、所謂特製さした譯である。

百貨店で娘達の土産に洋服や帽子を買つたが、英國風と日本風と異つて派手な色物は老人向で、無地な單調なものが娘向きで、全く日本と反對なので氣に入つた物を探し出すのに汗をかいた。

阿座上商店は常盤ホテルの前で日本人向の土産物屋であるが、便利のために日本人旅客は大分土産物を買つて繁昌して居る。

其隣りに酒井商店が洋服屋で、之も日本旅客を得意によい商買をして居る。
夕食は伊庭、井口夫婦、星野君等と共に送別の食卓とした。
ウオタルロー、ステーションまで三人を見送りに行つた。此處から汽車でサザンブトン港に行き
そこで船に乗つて大西洋を渡るのである。日本人の同行者が大分見えるやうだ。
歸りに星野君を伴れて劇場に這入つた。歌、手品、音楽、劇、踊り、ニュース映畫首相マクドナルドの米國行などを見て、十一時頃ホテルに歸り休んだ。

十月十六日 水曜日 (晴 天)

朝八時起床朝風呂後、獨り靜かに聖書馬可傳十章を読み、祈禱を捧げた。

朝食を済ましてブリチツシ、ミュージアムに行つた。埃及、希臘、羅馬、亞弗利加、南洋群島等の古代又は近代の蒐集品が無數陳列してある。居ながらにして世界の風土習慣、産業等の状態がわかる。

日本武器、刀劍などもある。繪畫の中には日本畫も陳列してある。

東京にも大阪にもこんな風に世界的の教養を助くる博物館がないが、躍進日本の魁を承はる大大阪あたりには、第二世、第三世の商士世界人を資する爲に是非こんなのが出来てほしいものである。

二時間ばかり大觀して歸つた。

午後星野君を伴ひ市中に出た。

香料商スタッフォードアワレン會社を訪れた。白髪の老主人と對談半時間にして辭した。

大阪商船の出張所に伊藤武雄氏を訪ねて懇談し、記念撮影をした。

歸り途がわからんでウロ／＼して居たら、住友銀行社員某が飛んで来て親切によく教へて呉れた。

永年の取引先コーンス商會を訪問した。主任者は神戸に居に人でよく話が合つた。

スチヴンソン、ハウエル香料會社

スチヴンソン、ハウエル會社を訪れた。

ブツシュ會社と共に永い取引先であるが、近年此の二會社は清涼飲料用の香料エッセンスに主力を注いで、化粧用香料の方は昔のやうに振はない。

夕食を呈したいとの支配人の好意を受けたが、お断りして懇談一時間ばかりで辭した。

場末の方に在る日本人武道會に行つた。谷といふ柔道の先生が主宰して、多くの英人を弟子にして柔道を盛んに稽古して居るのを見て驚いた。

劍道の方は在留日本人だけの練習で柔道程に振つて居ない。岡本君といふ北海道出身の在留邦人

三段位の腕前の剣士が見参して二三本立合つて見た。

久し振りに英京ロンドンで竹刀を振つたことも精進の道なればこそ、思出の種である。

常盤食堂に歸つて星野君と岡本君と三人で空腹に日本食を満した。

十一時頃迄荷物の整理や文書事務を終りて就床した。

十月十七日 木曜日 (晴 天)

スコットランドのエヂンバラ大學に遊學中の小林富次郎氏の四男辰四郎君に、エヂンバラ行を通報して居たら電報が來た。歓迎するから到着時間を知らせとのこと。

好都合此上なし。直に返電した。

阿座上商店で大型トランクを買つて、不用携帯品と井口君の不用荷物と詰合はせて、復航の日本郵船の便船に託送する準備をした。

スコットランド行

星野君に見送りを受けて停車場に出で、單身ブルマンカーの三等列車に乗り込んで、午前十一時十五分エヂンバラに向けロンドンを後にした。

三等車輛でも日本の二等より遙に上等で賃金も正に二倍である。

ロンドンよりエヂンバラ迄四百哩程の道程を八時間ばかりで達する。約三十圓程の汽車賃である車中獨りボツチの獨り旅、淋しいように思はれるが決してそうでない。却て靜觀、思考、休養の實が擧がつて無駄な道伴や話相手はあらずもがなと思はれる。

車中でエハガキ四十枚ばかり書いて日本の友人に送つた。

食堂で中食したが、之れは又不味いこと夥しい。とてもフランスのそれと比べられぬ。

車窓の眺望は格別に良い。面白い懐しい山の青緑、平原の野趣、村落の清雅、故國日本に相似たものが多い。四面環海に規を一にする爲であらうか。日本で見られぬものは緑りの牧場打ち續く中に、羊や馬牛の長閑に遊んでゐる美しい姿である。

午後七時三十五分英本國北の古都エヂンバラに到着した。約束通り小林辰四郎君が喜んで出迎へて呉れた。

構内にあるステーションホテルに投宿した。小さい一人部屋九志である。餘り高くもない。

學生さんにおごらして濟まなかつたが、遠來の客として夕食を饗せられて楽しく歡談した。

食後共に市中を一時間ばかり散歩した。

十時頃歸つて安眠した。

エジンバラ

十月十八日 金曜日 (晴 天)

今朝は英國スコットランド、エジンバラ市のノースブリチツシ、ステーションホテルの四階室に目を覚ます。

九時までに身支度諸準備した處に小林君が見えた。ホテルの勘定をすまし、少し買物をしに出かけた。

自動車を雇つて市中見物にドライブした。

キングスガーデンの青野を歩いた。

舊い宮殿の遺跡を見た。

墳火山跡の焼石山を見た。

大學前のミュージアムを見た。

山の上より霧の市中を展望した。

市中散歩少時。

ジョンノツクスの教會跡を見た。

ジョンノツクスの祈りの椅子に掛けて黙禱、最大教會堂を參觀した。

エジンバラ城に登りて展望した。

右の見聞に三時間餘り費した。

市中の料亭で中食した。

午後一時四十五分の乗合自動車に乗つて、小林君と同道でグラスゴー市に走つた。沿道では羊飼の牧場がいよゝ多い。石炭を積み上げた山の多いのが目につく。

野外の都村の風景を賞しつゝ、二時四十分程でグラスゴーに着いた。

グラスゴー

此處に着く一時間程前から車上から接續町村を眺めて子供の數多いのに驚いた。殊にベビーが多い婦人は十人の内八九人迄は子供の手を引くか、ベビーを抱くか、乳母車を押して居る。試に小林君と話して兩側を見て數へて見たら、ベビーの數が二百以上を一時間程の間に數へた。一人遊の出來る子供の數は、數へ切れぬ程道端路次に溢れて居る。他國では見られぬ盛んな生産状態である。嬉々として多くの子供が家外に遊び盛つて居るのは、實によいものであり、嬉しいものである。

第二の國民が充ち溢れて居ることは國の萬歳長久の基である。之がフランスの田舎や町では見られぬ圖である。歐洲の都では何處でも町や公園で暮夜白晝でも子供の手を引いたり、ベビーを抱いた姿などは探しても見付からぬ位で、其代りに相手の男と手に手を取つたり、抱擁の姿がいやといふ程目につくのはどうしたことか。

之について私の斷案はこうである。

巴里を始め歐洲の都市を散歩すると、婦人用の衛生器が一町内には必ず一、二軒は賣つて居る。ゴムで赤い色をして居るから直ぐ目につく。それがグラスゴアの町には殆んど賣つて居ない。スコットランドの町は皆そうかも知れない。

衛生器は避妊を兼ねたものであるらしい。

スコットランドは古い國で、人も知る英國で一番宗教教養の行き届いた處である。其處の都邑で子供をよく多く産み育つるといふことに不思議はない。

日本は生産率が高い。國は古い。宗教の國である。此點に於て英國、殊にスコットランドと相似て居るのである。

人口問題は國家の大事件であるから、其時の感想のまゝを記しておく。

三、四十分市中をドライブして見物した。大學前で記念撮影をした。

ノースブリチツシ、ステーションホテルに投宿して、夕食後暫く散歩し、風呂に入り日記を書いて休んだ。

十月十九日 土曜日 (曇 天)

昨日のドライブイング中、ロズさんだものを記す。

道遠し蘇國の秋をわれ祈る
主は一つ何の變らふ花紅葉
神を知る國の榮えや子澤山
旅の身にうれしくもあり秋の月
月出で、塔の高さの増さりけり

朝支度後小林君と市中に出て小公園廣場の銅像を見た。

ロバート、ビール (首相、政治家)

ダヴツド、リヴングストン (探險家)

ジエームス、ワット (蒸汽發明家)

ロバート、バインス (詩人)

ウォルタ、スコット

(小説家詩人)

ウイリヤム、グラツドストン

(大政治家)

等スコットランド出身偉人の銅像が、一廣場に各其雄姿を輝かして居るのを見ると、莊嚴々肅の感に打たれ、一種のインスピレーションを禁じ得ない。之も慥に眞似ていゝ事だ。

博物館に這入つて見たが大して見るべきものはない。有名な造船所村を河を隔て、大觀して、寫眞を撮つた。

一料亭で小林君と中食を共にした。

停車場に出て小林君と名残を惜しみ、互に無事を祈つて二時の汽車でグラスゴーを出發した。

曇り勝ちの雨模様で天氣で車窓の興が薄い。乗合の男子五、六人で無言の行は辛い。遠慮なく大いびきをかいて一時間ばかり眠つた。

撮影や謠やエハガキ書きや元氣で愉快に五時間ばかりの汽車の旅を了へて、午後七時半にリヴァプールに到着した。

リヴァプール

此處でも同じノースブリチツシ、ステーションホテルに投宿した。十二志の室料である。

夕食後暫く市中散歩を試み、歸つて廊下で顔を合はした同宿の女客が、頻りにスマイリングを浴びせるので、嬉しいやら怖いやらで部屋に逃げ込んだ。英國美人かフランス美人か知らぬが英語を話して居た。日記やエハガキを書いて十一時頃床に就いた。

十月二十日 日曜日 (雨 天)

朝九時迄に身支度、朝拜祈禱をすましてホテルで朝食四志六片であつた。

雨中をタクシー八志で市中を走り最大の教會堂に行つて禮拜に参加した。

旅行者の風來人だが主は一つ、信仰一つ、聖靈一つだ。何の臆面もなく三百人ばかりの會衆の中に交つて三十分ばかり居つた。舊教と新教と折衷したやうな空氣様式である。

港灣の船舶出入を見るべく海邊に走つたが、雨の海濁つて波は高い、沖の鷗が港に集つて飛び廻つて居る。英國第一の商港の雨景は何等見る價值がない。大阪の築港よろしくである。

マンチエスター

零時半の汽車に乗つてマンチエスターに向つた。雨中の列車で展望の利かぬは残念だが、一人借切り見たやうな静かき、心安き、却て旅情に楽しみ耽ることが出来る。

一時半にマンチエスターに着いて下車。雨中の町を見物する程のこともないから、直に他のステーションにタクシーで走つて二時半の汽車に間に合った。
ローカルツレインで各驛に着けるので速力が出ない。クルーウェといふ驛で又乗り替へだが、ポーターが居ないのでトランクを提げてマゴ／＼して居たら、一英人が親切に教へて手傳つてくれてロンドン行の汽車に間に合ふて乗り込んだ。
紳士三人と乗合したが、相手になつて恥かくより書見に耽つて時をつぶした。

ロンドン歸着

七時十分ロンドンに着いて、スコットランド英國一周旅行を駈足で無事すまして、常盤ホテルに歸着した。

島崎大阪市水道局長が常盤食堂に見えて居たので、埃及カイロで一別以來の旅談を投げ合ふて快談しつゝ晚餐を共にした。

江藤さんの通譯秋間君とベルリンで別れてからの話を聞いた。

矢本君から手紙、一週間ばかり病氣だつたと報じて來た。

ブツシュ會社より米國の訪問先への紹介狀が送つて來た。

マルセーユの山中基繼君から懇切な通信を受取つた。

今日は妻の誕生日を思ふて大阪に電報を打つた。

本月廿五日迄ロンドンに居る、皆達者かオメデト一の四語である。

十月二十一日 月曜日 (晴 天)

今日は十時頃迄事務に忙しく送つた。

横山正金銀行に行つて金二千五百圓を英貨二百十四磅五志五片に、一志十二片八分ノ三のレートで信用狀から引出した。

NYK支店に行つてポーター事務員に就きニューヨーク行の船切符を買つた。百十三磅十三志を支拂つた。

阿座上商店の買物代の中三十磅と星野商店の土産物代三磅十三志拂つた。

晝食をぬきにして、六時頃トキワ食堂で肉のすき焼きを美味しく食べた。

土耳其風呂に三度目行つたが、チップを忘れたので取扱ひが悪かつた。

秋間君と碁を打つて敗けた。

市中散歩を暫くしてホテルに歸り、おそくまで日誌や手紙を書いて休んだ。

十月二十二日 火曜日 (晴 天)

八時に起きて元氣に充ちて身支度し、朝の勤め聖書ルカ傳を読み熱心に祈禱を捧げた。朝食後酒井洋服店で假縫をさした。

買物の整理や荷造や文書調査事務で外出もせず半日送った。

加藤小太郎氏が偶然來泊されて面談した。前に書いたやうに關西信託の専務で信託界の重鎮だが梅花女學校の理事で、共に學校の事に骨折つて下され親しい間柄である。

即ち伊庭校長と加藤理事と今井理事が偶然同じホテルに泊り合はしたのである。

六時頃食堂に行つて星野君と鯛チリを食べて居ると、奇遇中の奇遇と云はふか古城江觀といふ日本畫家の友人がヒョッコリ顔を出した。

同君は南支、南洋、ビルマ、印度、埃及、歐洲諸邦、英吉利米國等世界を跨にかけて繪行脚の旅十一年を費したる奇骨稜々淡々水の如き快男子であるが、未だ名を成さざりし日よりの知己で、多少繪具代を貢いだ程の間柄であるが、其後何時の頃よりか杳として音沙汰なく、それこそ死んだか生きて居るかも知らぬほどのこの古城好漢と、世界の旅の空ロンドンの日本食堂で會合したのは全く以て奇遇である。

親の敵でなくて仕合せ、仲よく鯛チリの鍋をつゝいた譯である。

八時頃から星野君を伴ひ、ドニオンといふ新劇場に行つてレビュー踊りのオンパレードを見た。

歐洲諸國と大同小異巴里程の美觀はない。一時間餘り居つて歸つた。

十月二十三日 水曜日 (晴 天)

朝八時起きて朝の勤行例の如し、心身快適朝食後市中散歩を試みて町の風景をフィルムに納めて歸つた。阿座上商店、酒井洋服店、星野君、常盤館の諸支拂を済ました。

土産物を潤澤に買ひ過ぎた事や、通譯同伴費用などで豫算超過になつて、米國の旅行費を緊縮せねばならぬやうになつた。而し歐米共に金が足らぬ時は友人から借ることも出来る。電報一つで日本から送らすことも容易であるので心配なことはない。要は無駄費ひと盜難紛失を戒むれば良いのである。

中食を加藤小太郎氏と共にして快談した。

午後は文書其他の事務を果して常盤の北村支配人と將棋を二、三盤指した。

異國の忙しい旅に出て居て、恰も日本の家に居るやうな落着いたアトホームな氣持で暮せるので嬉しい。

十月二十四日 木曜日 (晴 天)

早朝五時に起きて、朝拜朝禮を終つて仕事にかかつた。

大トランク貳個ストケース壹個に土産物や旅装用品を詰合はせ、荷造をして三原運送店に命じて大阪港上げとして箱崎丸で託送することに手続きした。

島崎氏と面談中食を共にした。

大阪天満の新興からしの間屋の若主人黒川與三郎君が來訪された。

同窓の後進で面識の友人で英京留學中である。

長時間放談して居る處に大阪商船の伊藤武雄氏が訪ねられた。

大阪商船本店の劍友小石君の紹介を受けた方だが、一見舊知以上の歓迎振りで恐れ入つた。

御好意によつて黒川君同道三人で觀劇に行つた。立派な劇場で内容豊富、絢爛たるレヴューを見て肉體美、ダンス美、衣裳美の芳醇ならぬ豊艶に酔はされた。命の洗濯、若返り法は何處の世界も同様らしい。

十月二十五日 金曜日 (晴 天)

朝八時起床、靜かに身支度を済まし、明日はいよいよ米國に向ふので出發準備を忙しくした。

十時頃からロンドン最後の觀光に廻つた。サイエンスミュージアム、インスチテュート、ミュージアム、ウオアミュージアム、ナショナルギャラリー等を參觀した。印度、濠洲、ニュージーランド、ギニアファイジイ、南阿等の大英帝國屬領植民地の資源、産業、民風、土俗等の知識見聞を一堂に座ながらにして看取、見學出來る便益には驚異の眼を瞠つた。是なる哉、是なる哉。日の入ることなき大英領土の富源と申したい。小國民二世、三世の學童が隊を組んで見學して居るのを幾つも見かけた。我が文部當局よ、商工省よ、活きた學問と知識、國家百年の將來を計る施設國策に眼を放ちては奈何！。

支那料理店に行つて中食をすまし四時頃ホテルに歸つた。

滿鐵の留學生同窓青柳龍一君と黒川君と同道で來訪された。

歡談の後トキワ食堂で、わの鋤燒の晚餐を招んだ。

食後八時過から三人連でロンドン第一の映畫館エムバイヤスエムバイヤに行つた。

ベルリンもパリもロンドンも夜の町は美しい。町の夜は長い、不夜城は何處も同じ秋の夕暮でなく、春の宵である。

十一時頃共にホテルに歸り別辭を述べた。

ロンドン出發

十月二十六日 土曜日 (晴 天)

今日はロンドンの名残りだ。朝七時に起きて身支度をし、静かに禮拜をなし感謝祈禱を捧げた。朝食後出發の用意をすまし、荷物も手輕心も輕く勇んで自動車でウオタルローステーションに出てレザーヴせられた四十八室に乗り込んだ。九時五十五分の發車、二、三の見送りの友と握手、友よ平安なれ、さらばよロンドン！

同列車に長崎造船所技師衣斐氏と宮内省事務官岩波氏とが乗つて居る。同室に東京駿河臺の井上眼科醫學博士と同乗である。井上博士と談が合ふて時間のたつのも知らず、サザンプトン港に十一時に着いた。下車すると直ぐ棧橋で三萬六千噸の巨船モレタニヤ號が横附けして待つて居た。

モレタニヤ號

Dデッキ十七號一人室に荷物を納めさして手輕に乗り込んで愉快である。ボーイが一才來いといふから行つて見ると、食卓番號を定めてくれといふ。そこにNYKの社員樺木氏と顔が合ふた。

外に日本紳士が四人居るといふから、一々尋ねて行かんでも其の四人と同席六人の食卓を作れと命じた。

やがて午餐の食堂に這入つた日本人六人食卓を圍んだ。各自名刺交換をして懇談が續いた。

井上博士、岩波事務官、衣斐技師、熊谷氏、樺木氏、今井の六人である。

熊谷直三氏の名刺を見て熊谷直實ではないが何となく聞き覚えのある名前だと思つて居ると、向ふ側に居る熊谷氏が隣りの樺木氏と長崎に三年居つた云々と話しで居る。聞いて見ると長崎高商の卒業生だといふ。

芦屋に住んで居るといふから芦屋はどの邊かと聞くと、東芦屋の船戸といふ。私の宅の隣りの字で同村の近所に居る人だ。お負に私の宅のテニスコートには時々遊ばして貰つて居ましたといはれる。

同じ村に住む同窓生が、大西洋上の船の中で初對面の挨拶を交すといふのは實に面白い奇遇で、吾れ人共に驚いた譯である。

食後暫く甲板を漫步して運動を試みた。エレヴェーターでDデッキの自室に歸つて一人靜かに二時間餘り晝寝をした。

太 西 洋

六時に目醒めて身支度タキシードを着て七時晚餐の食堂に出た。日本人水入らず六人で歓談しつゝ食卓の時間を過した。食後完備清美のサルーンで休憩快談、エハガキや日記を書いて休眠した。

十月二十七日 日曜日 (晴 天)

船室の第一夜を明かし起きて見たら少し気分が悪い。船酔ひでもないのに頭痛がする。食欲もなく心持が悪い。よく考へて見ると通風換気(ヴェンチレーション)が悪かつた爲と發見した。隣り近所の日本人室皆然りといふことが判つた。怪しからぬことだ。悪くすると窒息する所だつた。ボーイを叱り事務員に注意した。

十時頃軽い朝食をすまし、甲板運動をして外気に充分浸つたら、元氣回復して気分も良くなつた。中食は楽しく撮ることが出来た。

甲板上の椅子をレザーヴして休んで午睡した。

六時前後に風呂に入った。

七時の夕食には生かき、スツポンのスープ、小鳥の肉、アイスクリーム等を美味しく食べた。賑やかなダンスを見物し乍らサルーンで手紙やエハガキを書いて、十一時過甲板を散歩してから感謝祈禱をして安眠した。

十月二十八日 月曜日 (晴 天)

モレタニヤ船中八時に起きて祈禱禮拜例の如し。運動不足の爲か食欲が乏しい。食堂に出てグレイプフルーツ、ポイルドエツグとロールパンにジャムを付けてすました。食後甲板を散歩してデツキチエアに休息して能く眠つた。

中食は六人揃つて卓につき、歡談盡きず愉快である、料理もサーヴィスも申分なしである。

午後も甲板を大西洋の海風に曝されて幾回となく散歩を続け、果ては椅子に埋まつて休眠するのであつた。六時にバス、七時にダイナー、八時にダンス、これは自分が踊るのぢやない。社交ダンスのワンステツプ位は出来るが、こんな處に飛び出す勇氣もなければ馬鹿者でもない。上陸券や携帶品申告票を税關吏から受取つた。官吏は船に乗り込んで居るのである。

夕やけ小やけ大西の海秋暮れて
行秋の跡おつかけて西の海

コロンブスの昔語るか浪の音
 荒浪の中に偲びぬコロンブス
 いさほし廣き大西の洋
 タやけの雲を目ざして行く船の
 舳先に立ちて故國をおもひぬ

十月二十九日 火曜日 (曇 天)

八時過起床キャビンで身支度を整へ、靜に祈禱禮拜を守る。海は波高くして船は少し動揺する。船室では文書讀書が出来難い。朝食後圖書室に上つて手紙エハガキ貳拾本を書いた。午後は談話と散歩で送り、四時から六時迄晝寝した。波浪高鳴り船の動揺も甚だしくなつて居るが、三萬六千噸の巨船、海難の恐れもなく船酔も感じない。

六時に風呂を済まし七時に食堂に出たが、今晚は特別奉仕で室内を裝飾して、船客一同に紙帽子の珍形を配つて被らせて船上の園遊會である。御馳走も念入りであつた。

記念御土産にゴム風船五つ、玩具四つ貰つた。ダンスも遅くまで賑つて居た。がダンスが大嫌ひだから針の筵のサルンを逃げ出して、圖書室で獨り假寝を食つた。

十月三十日 水曜日 (晴 天)

モレタニヤ航海今朝もまだ波が高い。元氣よく起き出で、朝の勤めを營み、九時半朝食、英貨五磅三志六片を米貨二十四弗九十仙に兩替した。圖書室で通信二十數通書いた。洋行中手紙は良く書き送つたがエハガキ丈でも千枚近く出した。

衣斐圭藏氏と互に旅行談を交換した。午後は風波が靜まつた。甲板を愉快に散歩した。岩波事務官は宮内省の宮様係りであるが、一緒に散歩しながら懇談を承つた。例の如く四時から六時迄晝寝して休養を怠らなかつた。風呂に入り晩食後荷物を片附けた。ボーイ達のチップを共同にやる爲相談した。一人前左の通り集めて皆に渡した。

Table boy	2-0-0	Cap boy	2-0
Cabin "	1-0-0	Elevator "	2-6
Bath "	10-0	Deck "	2-0
Chief "	5-0	Shoes "	2-6

4-14-0

十月三十一日 木曜日 (曇 雨)

モレタニヤ號で大西洋航海中である。今朝は海上平穩となつて平安なる舟行である。八時半起床して身支度を整へ、朝拜、祈禱、靜肅に勤行した。洋上に於て祈りの裡に力強く思念に浮びし事は、家庭に於ては虚榮虚禮を捨て、家族と共に實質的に享樂平和の家を成すこと。營業に於ては忠誠、協力考察勤行を體得すること。教會生活に於ては信仰と愛行の向上を期することであつた。

明日はニューヨークの港に着くので、荷物の整理などをして終日愉快に送つた。晚餐後外人客の豊熟せるダンスを見物して所感あり、思ひのまゝを記してみやう。

ダンス不禮讚

男が禮装して、出来るだけ奇麗にめかして、眞面目くさつた態度で、美裝艷麗の女を抱き上げかゝへこんで踊つて居る。怪しからんことだ。

女は美裝美身をこらし、半裸體で手足、胸、腰を露して男に取り付き、體を合はして男に引摺られて喜んで居る模様である。怪しからんことだ。亞弗利加あたりの野蠻人の音楽といふジャズの、愛慾と情感をそゝるやうなリズムで踊りをリードして居る。怪しからんことだ。

公開社交の席であつて踊らぬものは、靜かに偶の方に座つて謹んで之を拜見の姿である。怪しからんことだ。一指しといふか、一腰といふか、一踊り濟んだら踊つた男女が必ず共に拍手して居る。相手の踊り上手をほめて居るのか、音楽をほめて居るのか、田舎者には何がよいのかわからぬ。まさか自分の踊り上手と、快感に上氣せて拍手を求めて居るのでもあるまい。白髮の老人や禿げの親爺が娘のやうな女と組んで、生眞面目な顔して引き廻されて居る。赤い服や花模様の派手な着物を着た年増女や、デブの婆が、眉目秀麗の青年や船員に引き摺られて居る姿は、吹き出さずには居れぬ滑稽であり慘酷さである。相手は氣に入つた意中の好手であらふが、夫婦とか親子とか兄妹姉弟では興がないに限つて居ると思ふ。兎にも角にもダンスなるものは、異性の性感が基調であることは疑の餘地がない。

由是觀是、我々日本人の目から見ればどうしても賛成出来ないことだ。美しいとも愉快とも思へない。滑稽でなければ不届だ。罪惡だと喝破したい。男女の性感を中心として五慾六感の動くが儘に相抱擁して音楽に合はして躍動し、其處に必然たる或る情味慾念の満足を得るのだと白狀すれば問題は無いが、夫れ以上に優美の習慣とか文明人の上品な楽しみだとかいふのなら、それは全く偽善であり、欺瞞であり、甚だしき矛盾である。こんな自然暴露や自由奔放な姿を以て、公開人目の中で踊り狂ふやうな流行習慣は、日本の社會には輸入する必要は決して無いと斷する外はない。こ

れを平氣で眞面目にやつてのけて居る西洋人は禍なかなである。

社交ダンス以外に其道の専門家が舞臺で踊るダンスや、劇場で美しい娘達が體を振つて演ずる見世物ダンスは人を喰つた行方である。

其道の職業の娘共が肉體の美を誇り顔に足から股、腰、尻、胸、腕と丸出しにして唯乳と陰部だけ申譯に一寸だけ包んで踊る姿は、全く裸踊りである。踊り出したら舞臺一杯に音楽に揃へて足を上げ、腰をひねり、胯を擴げ、尻を立て下の方を中心として凡ての所作を工夫して觀客を喜ばして居る。之が美であらふか、善であらふか、眞であらふか、何でもかんでも輸入して外國の毒を日本に持つて來て空氣を汚し危くしてよいだらふか。歌劇とかレヴューとか紅毛人の惡風習其のまゝを我が祖國に受け入れてはなるまい。之れ實に愛國者の賛成出來ないことである。

ニ ユ ー ヨ ー ク

十一月一日 土曜日 (曇 天)

朝五時起床して身支度荷造りなどして六時半に朝食を済まして甲板に上り、人無き一隅朝風を浴びつゝ家郷の平安、旅行の大成、米國安着等々感謝の祈りを捧げた。パスポートの検査も無事済んだ。

だ。

入國稅拂戻書も受取つた。船はニューヨーク港に近づく。もう米大陸に上陸するばかりだ。霧深くして警笛警鐘鳴り響き、船は徐行歩むが如しである。成程「港に來て船を破る」との諺も思ひ出されて心が緊張する。港頭の女神像も何處に立つてゐるやらさつぱりわからぬ。漸くにして無事九時過ぎる頃船は埠頭に横着けになつた。井口太郎君と東洋館ホテル主人と出迎へに見えて居る。稅關手續は簡單に済んだ。

同窓の親友森村商事の大津賀宅次君が出迎ひに來て呉れた。共に東洋館に落着いた。東十九街四十一番にある日本人經營ホテルである。

廣い便利な部屋を準備してあつた。熊谷君、岩波氏も同宿である。井上博士と衣斐氏は部屋がないので外のホテルに行かれた。

岩波、熊谷、大津賀、井口夫婦と六人で日本料理の晝食をした。マダムも日本人、女中も日本人日本の料理屋に居るやうな心安さである。食後早速市中散歩を試み、トーマス社に行き郵便物を受取つた。家族や知己友人から多數の書信と家族の寫眞など手に入つて何よりも嬉しく見た。五時に歸つて部屋に籠り、感謝の祈りを捧げて休養した。大津賀君の來訪を受けて共に市中に出て日本人俱樂部に行つて晩食を共にした。同船の樺木氏や巴里の郊外で逢つた森本氏と又此處で面會した。

昨夜、ニューヨークの第一夜を明かしたが、ロンドンのそれと異つて何となく騒音雑音の交響で、下手なオーケストラでも聞いて居るやうで気分が落着かず、安靜な眠りも出来難い。朝遅くまで部屋に籠つて休養した。市中は大建築のトンネルで窓を明けても青空も見えず、日光も射さぬ。朝暮の區別がつかぬ陰暗の中に晝尚ほ電燈がなくして家居は出来ぬ。凡て世界第一を誇らんとする米國の最大都の紐育は、世界一の文化文明と誇るが知らんが、我等の心耳心眼に映る此町の第一印象の不快嫌惡は痛烈ならざるを得ない。誠に田舎者の感想を並べて見やう。

(一) 天地自然の恩恵から遮斷されること。日光と清新の空氣と絶縁の状態で朝暮の風趣もなく家に居ては晝夜の區別さへなく、青天白日の喜びも花鳥風月の樂も味へない。四季の變遷五風十雨の惠なく「樂しきは朝顔棚の下涼み」などいふ風趣は樂にしたいくても得られない。

(二) 交通地獄

人の行く道路面は鐵砲丸のやうな自動車走つて居る。電車は地下を潜り、路面を走り、高架街上を驀進して居る。大空にはトビや鳥の代りに飛行機が呻いて居る。地下鐵のラッシュアワーなど凄慘といふほど危険で、男女混争黑白混交先を競ふて命懸けで出入して居る。

(三) 歪める文化が淳風良俗の人倫を破る。誤れる經濟基調と歪められた文化が人間を機械、物質視、道具化し去つて家居、家庭の樂境を侵し、親子兄弟主従長幼の別を亂り、男女夫婦の禮を失ひ、人間が物慾至上熱に浮かされて動物の世界に退下墮落を餘儀なくせられて居る有様である。之を文化文明と感違ひをして天地自然の懷に在る田家山村の青年男女が都會に密集し、群居し來つて勢の底止する所を知らず、禍の盡くる所を知らざる世界の狀態であつて、善惡共に之が人間の宿命かも知れぬと止めをさそふ。

紐育の人口死亡率の低いのは金を儲けたら田舎に歸つて死ぬ者が多いからだといふが、成程さうありさうなことだ。土曜日から日曜日にかけて山野にドライブしたり、夏季に思ひ切つた避暑をする理由もそこにあらう。日本人は日本人として風土や氣候に即し、又歴史的の傳統を考察し特異の天恵を把握して徒に歐米異人異域の土風を其まゝ眞似したり取入れる事は大に禁しめねばならぬ。

三井物産の老社員大西明氏が來訪された。同志社出身者で米國に四十年も在留して居る老紳士であるが、京都の知己足利武千代氏の紹介狀で接見するのである。

足利氏は井口夫人の嚴父である。

信仰談、紐育談、南米拓殖談等で半日話し込んで仕舞つた。晚餐後井口夫婦と市中散歩を試み、若人に案内されて活動寫眞を見た。夜のニューヨークを觀察したが公表を略する。十一時頃ホテル

In Memory of
Jonathan Goble
a member of this Church
He went to Japan with Commodore
Perrys fleet as a sailor with
the simple thought of seeing what
opportunity there was in that
Land for Christian missionary work.
“He was thus the first protestant
missionary to Japan to set foot on
Japanese soil.”
The first portion of the bible
Published in Japanese was the
Gospel of matthew translated
by him.

に歸つて休んだ。

十一月三日 日曜日 (雨 天)

朝九時起床身仕度匆々大西明氏の來迎を受けて町に出た。

井口君二人と共に中央浸禮教會に行つた。二百人ばかりの集會で説教もよかつた。聖餐式にも參與した。

パイプオルガンのよい事、聖餐の整頓嚴肅なることも氣に入つた。

思ひがけなく此處で面白い事を見聞した。それは此教會の會員であつたデヨナサンゴブルといふ人が嘗てペルリー提督の艦隊に一水兵として乗込んで日本に基督教傳道の可否を視察する爲に來朝したので日本國土に新教宣教師として最初に足跡を印したといふ事と、日本語で發行された聖書、最初の馬太福音書は此人に依つて翻譯された事、日本の人力車の發明者は實に此人であつたといふことを聞かされた。珍らしい初耳のことであつたから會堂に掲げられて居る記念額文を寫して來た。正午に大西氏宅に案内されて晝餐の饗に與かつた。

御夫人が心安く歡待して下さつたことは忘れ難い思出である。大西御夫妻が極めて懇意にして居らるゝ留學中の椿眞六御夫妻を電話で呼び寄せて、突然私と對面させて二人を驚かし、面喰はせら

れたのも一興だった。椿君は我が天満教會の傳道師であつた人で親密な教友である。

十一月四日 月曜日 (曇 天)

紐育東洋館にて朝八時起床身支度祈禱朝拜を終り、朝食を済まして、熊谷、岩波兩氏同道で日本郵船支店に行つて、歸路米大陸横斷の汽車切符の件を交渉した。横濱正金銀行に行つて信用狀から金を引出した。金五百圓を四八、一五のレートで二百四十四弗七十五仙受取つた。市中散歩中水族館を見物した。

ウォール街の聖三一教會のヌーンサーヴィスに参加して説教を聞いた。

北濱街か心齋橋通りともいふべきウォールストリートの真中に古さびた教會堂が位置を占めて、林の如き静寂を與へて呉れるのは眞に味のある奥床しさである。三時頃ホテルに歸つて晝食をした井口君が自動車展覽會見物と商用を兼ねて通譯日本人を雇ふてシカゴに視察に行つた。其間美也子さんを保護して首府ワシントン観光に伴ふことを頼まれて迷惑閉口だが、親のやうに頼つて居るもの今更否とも言へず承諾した。ホテルで夕食を済ましてホテルのマダムと歡談に時を送り早く休んだ。

十一月五日 火曜日 (晴 天)

朝ホテルに籠つて手紙書きや要事を片附けた。今日は市長選舉日で市中は休業である。大津賀君が來訪したので、共に市中に出てブロードウエーを散歩し、ワナメーカーの百貨店に行つた。それからウルオースの五十階のビルディングに登る筈だったが時間切迫で止めた。

ステチュア、アイランドに小蒸汽で渡つて、自由の女神像を見に行く積りで船場近くまで行つたが之も止めた。ペンシルヴァニア、ホテルの食堂で大津賀君に晚餐を美也子さんと共に招かれた。後で大津賀君の案内で活動寫眞見に行つて盛り場を散歩して十時頃ホテルに歸り、明朝のワシントン行の準備をして休んだ。

十一月六日 水曜日 (晴 天)

午前五時起床して靜かに朝拜祈禱に専念し、朝食を済まして井口夫人同道でホテルを出た。停車場に走りブルマンカーの氣持良さ汽車で出發二時間程でフィラデルフィア市に着いた。

フィラデルフィア

サイトシーンカーに乗つて三時間ばかりを市中見物に廻つた。獨立記念館各公共大建築市中雑沓地公園記念名所等を観光した。造幣局でワシントンとリンコルの肖像印刻の精巧な記念メダルを買つた。三時頃に遅い中食をして、時間切迫匆々の中に停車場に駆けつけて、都合よく三時三十五分のブルマンカーに間に合ふて、インディアンの列車サーヴィスを興しながら華府に六時半に到着した。

ワシントン

ハミルトンホテルに投宿した。立派なホテルだが室代八弗拂つた。市中の勝手がわからぬから晩食はホテルで済ました。食後暫く散歩して、十時頃祈禱感謝を捧げて安眠した。

十一月七日 木曜日 (晴 天)

朝八時起床朝の勤めを終り、朝食後十時頃日本公使館に井口父君の紹介状を以て寺本陸軍大佐を訪ね、其宿元ポートランドホテルに行つて會見した。公用にて米國南部地方に自動車旅行に立出の間際で、三十分許り懇談して別れた。サイトシーンカーを雇ふて近郊に在る偉人ワシントンの舊跡を巡覽した。美也子さんも此頃は旅行に馴れて健康も申分なく、清朗潑刺小鳥の如く、少しも氣を

揉む事も手のかゝる事もない。出發當時や航海中の陰暗と厄介さとは打つて變つて全く別人の様だ大旅行の忍苦が効果を齎らして、若人を鍊ひ且つ心氣を鼓舞せしめた譯だらふ。三時間許りのワシントン郊外のドライブは實に愉快なる觀光であつた。モントヴェルノンのワシントンの遺跡の數々ワシントンの離宮、米國最初の教會堂、カーライルの家跡等を參觀した。ホテルに歸つて晩食、夜は手紙書きと市中散歩に費し、感謝祈禱を捧げ平安の裡に休眠した。

十一月八日 金曜日 (晴 天)

今日はワシントン市中の名物見物の日程で、朝十時から觀光乗合自動車に乗つて廻つた。造幣印刷局、カピトル議事參觀、博物館、リンコルン記念碑、郵便局、印刷局、商業會議所、市廳舎、海軍省、大藏省、ホワイトハウス等と他のお上りさんや邦人旅客と共に引き廻された。四時頃觀光を終つてホテルに歸つて休息した。ハミルトンホテルを引き上げてメーフラワーホテルに宿を變へた共に有名な大ホテルで旅客満員である。同じホテルに居るより見學の意味で近くにあるメーフラワールに行つて見たのである。市中のレストランで夕食を済まして、活動寫眞を見に行つた。どここの都もキネマの内容は大同小異であるが、トーキーの見事さはさすが米國と思はれる。

十時頃メーフラワーに歸つて一風呂浴びて安眠した。

十一月九日 土曜日 (晴 天)

朝八時起床身支度を整へ、聖書を読み祈禱を切にした。九時朝食を済ましてユニオンステーションにタクシーを飛ばしてブルマンカーに乗り込んで、ニューヨークへの歸路に就いた。

再びニューヨークへ

秋の小春日の好天氣を恵まれて、車窓に送迎する沿道の異國情景風致は愉快なる眺めである。

平安無事に美也子さんと同道にて華府觀光を終りて四時頃ニューヨークに着いた。トーマスクツク社に行く爲にタクシーに乗ったが、間違つた方角に走るから注意すると、場所もトーマスク社も知らないモーロー車夫らしかつたから直ぐストップを命じると、恰もよし誂へたやうに車がパンクした。之れ幸ひと他のタクシーを呼んで乗り替へて走つたまではよかつたが、ヒヨット美也子さんが十六ミリのキネマ機を前の車の中に忘れたことを氣が附いた。

又急遽ストップ命令を叫んで、前車の位置へバックさせた。五六分も経つて居るのに前車はパンク修繕中で下車した原位置に居つた。飛び下りて黙つてドアを開けて見ると、車夫の古外套を被せられてキネマ機はかくれんぼうして居る「之れ私のんや持つて行くぜ」を車夫に浴びせてトーマス

に走つた。女連れで活劇を演ぜず厄逃れをしてよかつた。

東洋館に歸つて見ると井口君は外出して不在である。美也子さんを部屋に送り届けて置いて、ペンシルヴァニアホテルに今夜から宿を替へるべく出掛けて部屋をブツクした。米國は世界一にホテル業の發達整備した國なのに、其紐育に行つて日本人經營のホテルまがいの安宿(餘り安くないが)に燻ぶつて居るのは氣が利かぬ話だから、井口夫婦を残して逃げ出した譯だ。井口夫婦はマダムと仲善し、遊び相手になつて親しいから其方が煙たくないらしい。夕方東洋館に歸り井口君と會つて懇談、共に晩食を済まし、勘定を済まして十時過ぎ荷物を携帯してペンホテルに宿變へした。明るい靜かな奇麗な部屋で、風呂に入り清新なベッドに安眠した。

十一月十日 日曜日 (晴 天)

ペンホテルで元氣よく起き出で身支度朝禮を終り、ホテルの食堂で朝食を攝つた。部屋もサーヴィスも食堂もすべて満點である。椿眞六氏に電話して教會行を誘ふた。同氏の來着を待ち共に出てリヴァーサイド教會に參列して名牧師フォスデック氏の説教を聽聞した。會衆満堂二千人位である。パイプオルガン奏樂聖歌隊は、さすがに本場と思はせられた。正午に終つて椿氏と共に黒人街に在る支那料理屋に行つて中食をした。椿氏と紐育を談じ且つ聽いた。ビヂネスエンヂニア、エ

コノミカルエフィエンシイに向つて文明文化は進みに進んで居るが、其大勢力と宗教道義の調和が如何に爲さるるかゞ問題であると語り合つた。ロツクフェラー基金であるのリヴァーサイド教會堂が盛んなる建築工程中であるが、工費四百萬弗といふことに驚かされた。マンハッタンのハドソン河畔最勝の高臺に巍々として天に聳えて居る此會堂の竣工後は、大美觀と共に其勢力教化の及ぶ所も偉大なるものであらうかと思はる。

景勝の地に建つて居るグランド將軍の記念館を見た。近くの公園にも共に散歩した。學校町ともいはるゝ此邊の學校をコロンビヤ大學始め其外觀を見物した。紐育もハドソン河の流の見ゆる所は天然の美が残つて居る。青葉の繁れる所には雀のお宿もあり栗鼠の巢も見らるゝ。

四時にはノートルダムの大寺院を參觀し、四時半にはセントジョンカセドラルの大集會に參會した。平和克復休戦記念祭で、會衆二千人位の壯嚴なる大集會であつた。椿氏と別れ五時にホテルに歸つた。試に晩食をベンホテルのグリルに這入つて見た。大した皿數もないが八弗取られた。由來日本では宿屋の飯は食はれぬといふが、それは不味い事をいふだらうが外國でもホテルの飯は食はれぬのである。高くて。

七時頃から井口君夫婦に誘れてロキシイといふキネマ館に東洋館マダムと谷山君といふ在留邦人と五人連れである。紐育通の四人に取巻かれて盛り場の夜景、夜の紐育の風景を滿喫させられた。

十時過ベンホテルに獨り歸つて風呂を樂しみ日記を認め祈りを捧げ安息した。

十一月十一日 月曜日 (晴 天)

八時起床、朝食後東洋館に行つて井口君を伴れて郵船會社に行き桑港迄の汽車旅行の日程表を作成した。其費用一人前六十四弗七十六仙である。正金銀行に行つて金五百圓を信用狀から引出した四十八弗六十仙替で二百四十三弗を受取つた。東洋館に歸つて三人で中食をなし、食後同道でメーシー百貨店に行つて參觀買物をした。夕食後東洋館マダムの招待でパーマネントのキネマ館に案内されて他の客人と共に六人連で映畫を見た。十二時頃ベンホテルに獨り歸つて休息した。

十一月十二日 火曜日 (晴 天)

朝七時起床して身支度、即ち洗面、風呂、便所、髯剃、着衣、聖書拜讀祈禱を済まして居ると、井口君夫婦が來訪したので共にホテルの食堂に招じて朝食を取つた。やがて三人同道でセントラルパークに散歩し、博物館を大觀した。古い歴史のない國に珍奇古物名品の在る筈がない。皆金力を以て埃及伊太利邊から買ひ取つたものばかりである。而し種々古代の骨董物や新時代の工藝品等を一通り賑やがに揃へて陳列してある。四十二丁目あたりのレストランに這入つて中食をした。大西

家を訪れて椿氏とも會見した後、案内されてリヴァーサイドの勝景を見物に出た。此處の珍景を大分フィルムに納めた。珍景とは栗鼠と親善、雀のお宿、巡查と子供の追ごっこ等である。再び大西家に戻つて大西夫人や椿夫人と面談した。夫れから急に思ひついて井口君と私と共同で大西御夫婦と椿御夫妻を招待して御暇乞と謝禮の爲に晚餐を共にすることにした。ブロードウエー邊の支那料理屋に行つた。三夫婦の中に自分が主人役となつて食卓を囲み、餘興のダンスなど見ながら懇談した。終つてブロードウエーを散歩して、ペンホテル前で一同に別れて獨り部屋に歸り、風呂に入り日記を認め、感謝を捧げて安眠した。今日の偶感を駄句つて認めた。

うつしゑの姿ながめて思ふかな

今日やいかにと獨りさびしみ

人みなのがひはなれぬさまを見て

一人歩ける影をさびしむ

神ともに在すをなにかうれふべき

海山行くも我が庭と見て

十一月十三日 水曜日 (晴 天)

朝身支度を済ました處に山下一郎君から電話がかゝつて、今日一日案内したいからとの申出があつた。難有之に應ずることにした。同君は今三井物産支店の部長級の社員であるが小學校同窓の郷友である。

郵船會社に走つて、買付依頼をして居つた、米大陸横斷觀光旅券を受取つた。三井物産に山下一郎君を訪ひ直に同道してウオル街に出て株式取引所を一覽し、立食店に這入つて中食を済まし、サブウエーで第十四街に行き東洋館を訪れ、井口君を誘ふて又サブウエーで山の手に潜り、山下君の自動車ガレージに行つて同君運轉の自用車でドライブした。

初冬風景を愉快に眺めたが、郊外の文化と住宅地の豪壯振を見て大紐育の富裕を思はせられた。水源地の靜寂地を訪れて天然の野趣を楽しんだ。小雨の中を町に歸りて山下君の立派なアパートの住居を訪れた。夫人に初めて紹介されて懇談數刻、簡潔なアパート家庭生活の様式を見學した。井口君は此處からホテルに歸つた。山下君夫妻同道で支那料理屋に案内されて晚餐を饗せられた。隣りの食卓で早川雪洲が食事をして居た。再び山下君の宅に歸つて懇談一時間餘、十時半頃高架電車で一直線に三十三街に出てペンホテルに十二時頃歸つた。風呂に入り日記を認め休息した。

十一月十四日 木曜日 (晴 天)

朝八時起床身支度例の如く元氣よく今日の日程に向つた。

家郷へ手紙やエハガキ十四五枚書た。朝食後獨り市中に出て三十三街の森村商會の大津賀君を訪れ、店で小時快談した。共に出て、マンシー百貨店を見た。ペンホテルに歸つて食事を共にした。五時迄に三井物産に行つて大西氏と宇佐美氏に面談した。共に日本料理屋みやこに行つて晩食の御馳走になつた。山下君夫妻と宇佐美社員と自分と四人で山下君の御好意である。食後芝居見物に案内された。子供の時に村芝居を見た昔話も出た。美人の踊、舞臺の美觀、非常に壯麗に見えた。果て、十二時頃宇佐美氏にペンホテル迄見送つて貰つて一時頃就床した。今晚で紐育は終りで、氣に入つた此ホテルにサヨナラだ。

十一月十五日 金曜日 (晴 天)

今日は紐育を出發するので朝早く起きて風呂に入り、身支度結束して朝食を済ます。大津賀君が來訪して暫く歡談した。十一時半頃晝食を取り、ホテルの支拂三十一弗十仙を済まして荷物携帯グランドセントラル、ステーションに急いだ。大小三個の鞆の中大トランクを四百弗の價格と見て三十仙の保険料を支拂ふて桑港停車場までチエツクした。

大西夫婦の見送りを受けた。大津賀君とも此處で別れた。山下一郎君よりは各都市のホテルを委

細に電話で通知して來た。持つべきものは善き友だ。旅先では殊更に其親切が難有い。井口君夫婦と同室一時五十分の汽車で紐育を出發した。

ボ ス ト ン

午後七時頃ボストンに着いた。スタートラー、ホテルに投宿した。

井口ダブルベッド 六弗五十仙

自分シングルベッド 四弗五十仙

市中のレストランに行つて三人で夕食した。一弗二十五仙チップ十仙である。ホテルの部屋には獨り用のラヂオの設備があるボストンの第一夜を靜かに休息した。

十一月十六日 土曜日 (晴 天)

秋天清朗にして寒氣増す。朝七時半起床して身支度をなし、獨り食堂に出て朝食を済ます。九十五仙とチップ十仙拂つた。アメリカンボードの事務局に行つて伊庭梅花校長の消息を尋ねたら、紐育に行つた後で行き違ひになつた。實は梅花女學校の基金募集で、或は伊庭校長と共に少し奔走の御相伴に引つ張られそふな氣持もしたが、紐育の株式大暴落、國をあげて人死の出来る程のパンツ

カが襲ふて居る昨今ではあり、此企は放棄を餘儀なくせられ、又伊庭校長とは行違ひとなつて私に取つては災難のがれとなつて杞憂に終つた。午後二時からサイトシーングカー（一人前二弗半）に乗つて井口夫婦と市中郊外の見物に出掛けた。

秋氣清朗の日、知らぬ異國の郊野疎林をドライブする快適此上なしである。コンコード其他の戦争遺跡や、功名を擧げた偉勳者の遺跡遺物を案内されたが、米國の一州一部に關する一地方的の勇者偉人の戰跡などは日本人には關心にも値せず興味も引かぬ。それよりも異國の人と膝を交へて同車して親しく天然の山川、自然の景趣を楽しみ、覺めて語り、疲れては居眠り、呑氣なドライブ其ものがなに程かより愉快なものである。乗合の二人の米國美人に心安く話しかけられて、種々と旅行談や日本のことを問はれつ問ひつしたが、何分他國の言葉に不自由があるから縦横快談が出来ない此處でも語學の勘能を思ひ、語學の力が海外旅行の價値を定むるものだと感じたのである。四時間ばかり走り廻つてポストンに歸つた。昨日アメリカンボードで聞いてきておいたオーバンデールに休暇歸郷中のミス、ケリーさんに電話して明日會合の約束をし、明朝ポストンのホテルに迎ひに行くとの事であつた。

伊庭校長に會へないのに思ひがけなくミス、ケリーさんに會へること之れ又可也である。

十一月十七日 日曜日（晴 天）

假にニューヨークを大阪と例へたらポストンは京都と見ることが出来やう。ニューヨークの商工經濟の産業都市と對してポストンは歴史、學問、教育、宗教の都と見ることが出来、町の色彩も人の姿もそんな風に見えるやうである。今日の安息聖日をポストンに居たことも善いことであつた。スタートラー、ホテルで朝七時起床して、身支度靜に朝拜祈禱を済まし、獨り朝食を認めてケリーさんの來訪を待つた。九時の約束が遅れて十時になつた。ケリーさんが休暇歸郷中にお父さんに買つて貰つた自動車を自分が運轉して來られたのである。運轉は十日ばかりで練習を終へ免狀も取れたが、ポストンの町が曲折多く、やゝこしいのでお父さんを道案内に同乗して來たとの事。一別以來の歡談お父さんへの紹介、話に花が咲いて時ならぬホテルの玄關で日米親善の花も匂ふた。ミスケリーさんは大阪の淀川善隣館の社會事業に身を以て當り、モラン氏を助けて副館長格で隣保の聖業に職を奉じて居られ、私は其管理々事として微力を致し、ミス、ケリーさんとは懇親の間柄である。老ケリー先生は今白髮の老翁だが、若き年日本に來りて京都同志社大學に四十年の教鞭を取り、日本の教育の爲に一生を捧げられ、今老夫人と共に隱居してオーバンデールの町に老を養つて居られる。而もミス、ケリーさんは、大阪に働き、長子ケリー氏は北海道小樽に駐在して傳道教化

に、**勞**して得らるゝ。實に難有い尊いことである。

さても井口夫婦はと別室に起しに行つたがまだ寝て居る。漸く大急ぎに支度さして美也子さん丈
け同伴することにして四人同乗、ミス、ケリーの運轉で數里を離れたオーバンデールの教會に走つ
た。マサチュエツト州ボストン市郊外オーバンデール町の組合教會である。

説教には間に合はなかつたが、幸に聖餐式が執行されて居て靜肅聖別の雰圍裡に主の聖餐に與か
ることが出来た。コワイヤの精練さ、集會の靜肅さ、パン、杯配餐式の整頓さが目についた。集會
後に牧師と握手し、ケリーさんのお母さんや親戚友人に紹介され、挨拶を交はした。ケリーさんの
御住宅に立ち寄つて記念撮影をなし、お父さんに握手してお別れした。それから英國式の清楚なレ
ストラントに案内されて中餐を饗せられた。懐かしさ、嬉しさ腹一杯の中にもチキンカツレッツがと
ても美味しかつた。程遠からぬ女子大學を參觀した。疎林の高地、湖畔の勝域に幾萬坪の宏大なる
敷地に學校、圖書館、寄宿舎、チャベル俱樂部等の建物が清雅に立ち並んで居る。

ケリーさんの案内で自由に參觀を許された。支那の女學生が支那服の美しい姿で、二三人芝生を
散歩して居るのをフィルムに納めたりした。

歴史附のチャベルにも這入つて見た。十六年前に學校が大火災に遭ひし時校長の熱烈なる信仰の
力、一ヶ月も休暇なく、閉校せず、生徒を集めた苦心美談を聞いた。教會の事、教育の事業は信仰

と祈禱が礎石であることを深く感じた。

電車乗場迄ケリーさんに見送りを受けて、此處で日本に來られるまでのサヨナラを言つた。美也
子さんと二人で五時頃ポストンに歸つた。

井口君の部屋で休息し、市中に一緒に出て支那料理屋で夕食を共にした。夜は手紙を書いて早く
床に就いた。

十一月十八日 月曜日 (雨 天)

朝目を覚ますと今日は珍らしく大雨である。身支度朝食後、世界一の名ある圖書館に行つて見た。
雨に降りこめられて二時間ばかり參觀、晴耕雨讀の趣に適つて又結構。雨の時間を市中を歩いて買
物をした。市中で五十仙の中食をした。

ホテルに歸つて勘定十三弗半を支拂つた。事務や荷物を済まして出發時間を待つた。五時過ぎ井
口夫婦を同伴してサウスステーションに出た。暫く構内に居て目につくことは、雜書類や廣告的文
書の豊富低廉なこと。停車場の廣大にして凡て便利なこと。ポーター等のよく行き届く事。レモン
水、アイスクリーム、ビール、その他飲物の安價で自由に飲めること等である。寢臺付夜行列車
に乗つて六時十分にポストンを出發した。

十一月十九日 火曜日 (晴 天)

昨夜はボストンオールバーニー線の鐵道行進、スチームの緩い寒いベッドで明かした。六時起床身支度を整へ、日記をつけて七時半バツファロ市に着いて乗替へた。

バツファロとナイヤガラ

此處で荷物をチェツキして乗車切符全部を當局にデポジットしてレシートを受取つておくのである。

やがてナイヤガラに向つて出發、約一時間で着く。車中で見物の自動車案内者を定めて契約した三時間三人で十弗に定めた。

數日前に旅客が此處で悪車夫連のギャングの追剥の出た噂を耳にして居るので、一寸腹帯を締める要がある。下車直にランチを取つて、案内タクシーに乗つて音に響くナイヤガラを見物した。豪壯々麗の美観はいはすもがな、始めは合衆國側の高所瀧の上から眺めて寒冷身に迫る瀧しぶきの中で撮影をしたり、公園内に散歩して居る雉に餌をやり、フィルムに納めたり、瀧の源の河の上流などを撮影した。後で國境の河のナイヤガラ橋を渡つて、加奈陀側から日本ならば雄瀧、雌瀧ともい

ふべき二つの大瀧を見物した。この眺望が繪畫や寫真によく見る絶景の瀑布である。この界限の名所を暫くドライブして見たが、土産物屋にせがまれるのがウルサイものである。リフトで河底下りて瀧下の奔流も見、記念撮影もした。

歸りには合衆國に這入るので橋畔の見張所でパスポートの検査を受けた。停車場に無事歸着して一時間程待つ間に中食をした。偶然又衣斐圭藏氏に合つた。同氏は直にデトロイト市に行かれる。吾々三人はバツファロに一度戻つて荷物を受取つて行かねばならぬ。バツファロ市に戻つて舊停車場に下車して無駄を演じて、タクシーで新停車場に走つて此處で二時間ばかり汽車を待たされた。其間に床屋に這入つて、理髮、顔剃をさせた。グウ／＼良い氣持になつて眠つて居る間に、美顔術を念入りに仕上げて仕舞はれた。料金二弗二十五仙取られた。電機でマツサチをしたたりクレイヤクリームの幾種を塗り込み、洗ひ、剃ぎ、大分工作をしたと見へて鏡を見てビックリした。頬べたを捻つて見たが夢ではない。それはこの私の恵まれぬ面相が全く以て別人の如く美顔、美貌、實に幸四郎か左團次丈の出現かと思はれた程であつた。其證據には其用具電機を高く買つて持ち歸つたことと待合所に居た美也子さんが目を白黒さし、太郎冠者が時間がないといふのもきかず飛び込んで二の舞を演じて、美也子夫人に天下一品の男振を見せたことである。

五時廿五分の汽車で出發、十一時頃自動車の都デトロイト市に着いてブツカヂラツクホテルに

投宿した。一流ホテルで五弗の室料である。

デトロイト

十一月二十日 水曜日 (雪)

朝七時半起床して身支度匆々朝食にうかつに大食堂に出たら一弗九十仙も取られた。今日は井口君は紹介先の自動車部分品屋に行くからとて美也さんを伴れてフォード會社を見物に伴れて行つてくれと又しても迷惑な頼みだが、妻君を要事先に伴れ廻つて行くのも不自由のやうだ。さりとて美也さんを一人ホテルに留守番さす事も出来ず、餘儀なく今日も自分の観光に同伴することにした。まあ自分の娘を伴れて世界を旅して居るやうな氣で足弱を勞はらねばなるまい。大雪の中をフォード會社に走つて、特別案内者を手當てして、工作能率の最尖端を走る世界第一のフォード自動車製作所の工作状態の現状を參觀した。驚くべきスピード能率の實際は詳記を省く。市中の公園や其他の名所を二時間ばかり見物してドライブした。ホテルに一時過歸つて中食を済まして休息、井口君の歸りを待つて午後三時半の汽車でデトロイトを出發した。雪中の汽車行進も珍らしかつたが五時間間の積りに時差が一時間加はつて、退屈な六時間を費してシカゴに着いたのは九時頃だつた。ビス

マルクホテルに投宿、此處も室代五弗だ。

シカゴ

十一月二十一日 木曜日 (晴 天)

七時起床身支度の後、朝拜祈禱を守り、朝食を済まし二人を起しに行つたが、九時になつても起きぬ。朝寝常習者のおつさあいも出来ず、今日一日は自由行動を言ひ渡してホテルを出で、スチヴンホテルに衣斐氏を訪ひ、岩波、伊藤兩氏と四人連でサイトシンカーに乗つてアーモリアのストウクヤード即ち鑛詰製造屠殺所を見物に行つた。

アーモリア・ストウクヤード

シカゴ名物の随一かも知れぬが、血腥さい慘酷な殺生地獄を知らぬが佛で見物に行つて驚き入つた。犠牲者の大群は停車場から特別列車で屠場に輸送され、羊や牛豚達は一本筋の細道を否應なしに現狀に追ひ込まれるやうになつて居る。電機仕掛で大工場の仕事場の上を吊り鉤が順行して、其鉤には生ける牛や豚や割かれたる肉塊や千差萬別の製品がブランコして運ばれて居る。豚は四足の

後、足一つを鎖で縛られて生きながら吊鉤に逆さまに吊り下げられて、五、六尺間置きに、一列縦隊で運ばれて来る。遅い黒人が恰も不動様のやうな形相で、降魔の利剣ならぬ青龍刀の片割れ見たやうなメスを手にして立つて居る。其前に獲物が来ると揮刀一閃喉元に向つて突き刺される。悲鳴絶叫の一聲と共に鮮血はフォースの口切つたやうに迸りしり流血の惨以上飛血の凄である。三、五分間の断末魔のものがきの後、粹切れる。返り血を浴びて黒人は形相いよ／＼凄く、次ぎ／＼に廻り来るものを屠り去るのであるが、之れ實に彼黒人の日々の仕事である。血を流し切つた豚は熱湯を浴びせるスチーム室を通過させられ、全身の毛は煮へ落され、白むけになつた丸裸になつて出て来る。それを次ぎ／＼に待つて居る刀手が、一人一人持場を定めて首を切る、四肢を断つ、背を割る、胴を切る、腹を割く、臟腑を捌く、三分五分八分刻々順次に切り捌かれ、調理され、幾十の工程を経てハムとなり腸詰、罐詰となり、荷造され郵便局やステーションに送達される。

憐れむべき彼等が屠所に歩みを入れてから一、二時間の後には切り刻まれて、罐詰になつて工場を送り出されて行つて、世界中の文明人の腹に葬られるのである。羊も牛も同じ行程の運命である。只羊と牛は初め鐵槌で痛められて居る爲か、メスの一突には悲鳴はあげない。泡吹いて毛皮を逆むき丸剥にされて居る。血は流れて河をなし肉は飛んで山をなす以上の殘虐慘酷の修羅場が此世にありとすれば、シカゴの屠殺場が見本の最たるものであらふ。

毎日三千、五千の従順なる無抵抗の生物が屠られてシカゴの町を肥して居るのである。所謂文化と資本主義が生産機構を此處まで追ひ込み鞭うつのである。生物の優勝劣敗、人間社會の弱肉強食は古今東西千古よりの常事茶番事と一笑すればそれまでながら、佛者の殺生戒や、肉を禁する聖者の姿を憶ふと、人間の文化文明なるものを呪ひたくなる。

正午スチヴンスホテルに歸つて中食をしたが、今日だけは肉を食はないことにした。否とても食ふ氣持にならなかつた。ナショナルヒストリミュージアムを見物に行つた。之も世界一ともいふべき完備、豪華なものであつた。鑛物、植物、人類の武器兇器、原始蠻人の生活道具、衣服、習慣等に關し廣範なる蒐集は豊富そのもので實に驚くばかりである。三時間餘りを此處の見物に費した。五時頃スチヴンスホテルに同道して岩波、衣斐、伊藤、永倉の諸氏と快談盡きず晩食を共にした。六人連れでシカゴといふ劇場へ芝居見に行つて、十時頃ピスマークホテルに歸つて休んだ。

十一月二十二日 金曜日 (晴 天)

朝七時起床身支度をなし、朝食を済ましてスチヴンスホテルまで歩いて行つて汗をかいた。岩波衣斐兩氏と共にアトインスチチュートを見て半日費した。正午シカゴ第一の有名な百貨店マール、ワイールドを參觀した。男子部と女子部と別々にあるが男子部は閑古鳥が鳴いて居る靜寂に

引き換へ、女子部は押すなくの満員盛況だ。女ならではの夜の明けぬ國は日本だけではない。外國の方が遙に上手である。四時頃ホテルに歸つて風呂に入り休息してポツ／＼出發の用意をした。今夜十時十五分の汽車でシカゴを立つたのである。

撮影機をスチヴンスホテルの衣斐氏の部屋に預けて置いたので、夫れを取りに二十分程歩いてホテルに行つたが千人から宿る大ホテルで、屋内の雑沓町の如くである。一寸衣斐氏を探して見當らない部屋へ電話して見たが二度とも不在である。サン／＼に探しても居ないからホテル内警戒の刑事にまで世話になつた。最後に念の爲めに幾階か上の部屋に行つて見たら、衣斐氏はツクネンと私を部屋に待つて居る。電話が不通だつたり、間違つたりしてマゴついた。初めから直に部屋に行けばよかつたことが後でわかつた。

撮影機二度目の災難である。ピスマークホテルに飛んで歸り、用意の荷物を持つてデヤボン、ステーションに出て汽車に間に合ひ、寢臺車に乗り込んだ。

米大陸横断

十一月二十三日 土曜日 (雪)

米大陸の汽車のベッドに眼をさますと寒天白雪の朝景色である。

七時頃起きて身支度十時頃朝食を済ました。展望車に陣取つて撮影、書見、午睡で暮すのである。衣斐、岩波兩氏も同列車であるが車輛が違ふ。

井口君二人は隣のベッドに寝て暮して居る。見渡す限り茫々たる平野に粗放農作が豊穰でゴールドン、ステートと謂はるゝ地方である。鐵道は東北から南より西へ走るので、進むに伴れて雪は消へ温度は上るのである。中食を抜て午後はトランプを教へて貰つて三人で愉快に時を過した。八時過ぎに晩食を取り、就床したが、國元の夢や、死んだ慶子の事など神経を痛めて眠られなかつた。

十一月二十四日 日曜日 (晴 天)

朝六時起床、身支度をして食堂に入つた。展望車で日記を書き、聖書を読み耽つて時を送つた。同車の外人マダムと暫く談した。部屋に歸つて中食ぬきにして又井口二人とカルタを遊んだ。三十一文字なら負けないが、カルタの三十一とかは負けばかりである。車窓の展望は出来るが殺風景此上なき大陸である。ニューメキシコ地方は砂漠のやうな感じ山らしい山など殆んどない。斷層的な地質の崩れ跡に申譯のやうに青いものが疎らに生へて居る。

土人の土の家は四角な蟻塚の様な木造の陋屋が、どうしたことか日本のそれに酷似して居る。驛

で物賣りに来る土俗の女、子供の顔立、色合、着物良くも日本人に似てゐる。日本語を饒舌つたら全く日本人と區別は出来ない位だ。考へて見れば太平洋の東岸と西の島で産み出された人間同志、幾千年の大昔は同じ先祖で親類同志であつたらうなど、飛んでもない想像を走らしたのである。

十一月二十五日 月曜日 (晴 天)

昨夜十一時頃アリゾナ洲のウイリヤム、ステーションに着いて停車場で夜明を待つのであつた。

グラランドキャニオン

朝八時半頃グラランド、キャニオンに着いて、自動車で停車場近くのホテルに行つて朝食をした。このホテルには在留日本人の青年が七八人働いて居る。九時半からサイトシーンカーに乗合つて音に響くグラント、キャニオンの奇勝を見物に行つた。三四十人の観光旅客が二三臺の大型自動車で現地の展望地點にドライブするのであるが、此處で上り下りの日本旅客が一緒になつて岩波、衣斐肥後、松岡及其友人、井口二人、今井の八人同行となつた。グラランドキャニオンの事は詳記を省くが大昔大水層が流れ流れて地層の弱き部分を洗ひ流して一大灣液を造り、奇岩、奇山、奇層を無數に残した大自然の成せるケイヴの跡である。謂はば松島が大地震の名残で美景を作り、富士山や琵琶湖が地殻の凹凸大地震の遺物と見るのと同じであらう。

琵琶湖が地殻の凹凸大地震の遺物と見るのと同じであらう。

インディアンダンス

今日一日初冬の好天氣を恵まれて、長閑な觀光ドライブに搗てゝ加へて此邊の土俗インディアンダンスを面白いものに見られた。踊りは驚踊り、戦争踊り、禮拜踊りの三種であるが、原始的な音と形で大奇聲を發して足腰を振り廻し、駆け違ひ、飛び廻りとても滑稽な人を喰つた蠻的なダンスであつた。夕八時半停車場に出て元の汽車に乗り込んで出發、夜行ロスアンゼルスに向ふのである。

十一月二十六日 火曜日 (晴 天)

昨夜中を汽車ベッドにて明かし、尙も西へくと大陸を走る。朝七時起床身支度を整へ、聖書使徒行傳を熟讀し、祈禱を捧げ身心彌々元氣を感じ。朝食と晝食を今日は衣裘、岩波、伊藤の三氏と共に歡談の裡に済ました。車窓の眺は相變らず茫々たる不毛の平原、殺風景砂漠の如き曠野が續くばかりである。而し米大陸開闢未だ淺く、開拓其極に達せず、沃野千里の觀なきも、幾千年の將來に於ては農産、鑛産共に無限の寶庫を米國に約束するのであらう。實に美望の至りである。正午か

ら温度が著しく高くなつて来た。沿道の土地豊饒の相が見へ出した。打ち続く沃土平野に蜜柑の栽培地が見ゆる。メキシコに近い南加地方の温暖農作地に達したのである。二時十五分待望のオーシス、ロスアンゼルスの花の都に到着した。

ロスアンゼルス

ビルチモーア、ホテルに投宿して早速風呂に入り、大陸の旅塵を落とし、シャツ、サルマタの洗濯をなし、日記を書き、大阪に電報して一息眠つた。

ロスアンゼルス着、本月二十九日桑港に出發す、氣候春の如し、元氣旺盛なり、これだけの通信を "Uojohijaher" の私用コード一語で辨するのである。午後七時町に出てカフェテリア(簡易食堂)に行つて手軽く夕飯を済まし、井口君と暫く寄席を覗いて見た。

十一月二十七日 水曜日 (晴 天)

ロスアンゼルスのビルチモーアホテルに眼を覺し、七時起床、身支度、感謝祈禱を捧げ、朝食後手紙書きに一時間ばかり費やし、イーストマンの寫真屋に行つてフィルム現像の事を頼み、十時からリンコンカーをハイヤしてロングビーチとシグナルヒルの名所観光にドライブした。

ロングビーチとシグナルヒル

岩波、衣斐、井口二人、今井の五人同乗である。ロスアンゼルスの太平洋の波靜かな海岸であるが、椰子の樹の街路樹で、氣候溫暖の氣和やかな處海水浴場が打ち續いて、師走近い海邊に河童の子が雌雄二三匹遊んで居る。シグナルヒルは有名な石油寶田の在る所、見渡す限り石油井の吸上槽が林立して居る。數ヶ所現場を見たが驚くの外はない。盛大無量の富源が湧き出で、米國を富まし世界を動かして居るのである。ロスアンゼルスに歸つてカフェテリアで中食を済まして、正金銀行に行つて金を引出した。日本貨貳百五十拾圓を四十八弗五十五仙替で百二十一弗受け取つた。

同窓の友永井伊太郎君を日本日々新聞社に訪れた。二十年來音信不通であつた學友も異國で會へば又格別の味が出る。快談一時間ばかりして明日を約して別れた。井口君二人を同伴して日本人町を散歩して書店に寄つて居ると、舊知の在留邦人有富氏に邂逅した。有富氏は大阪で基督教世界社に居た人で、井口君の父昌藏氏美也子さんの父足利氏とも相識の間柄であつたので、有富氏が此奇遇を非常に欣ばれた。

とうとう、吾々の遠慮辭退を排して夕食を饗せられて恐縮した。川福といふ日本料理屋で、久し振りに吸物、煮物、鰻蒲焼等日本と少しも異らぬ上加減の御飯をととても美味しく頂戴した。七時に有

富氏と日本で再會を約してお別れした。三人で市中散歩を試み、キネマ通の井口兩君に誘はれて十時頃まで映畫を見た。

十一月二十八日 木曜日 (晴 天)

朝六時半起床身支度、朝食を済まして永井君の來訪を待った。今日は井口二人と別々に自由行動である。九時過永井君が四歳ばかりの女の兒を伴れて來た。同君自用の小型自動車に同乗して郊外の同君私宅に行つて、夫人にも初對面の挨拶を交はした。イーグルスツリートといふ此處鷺の町に居て、永井君は鷺の如き颯爽さを見せ、異域多年の奮闘を語るものがあるが、夫人や和子嬢は鳩か燕のやうに親しみ易い懐かしい我が大和撫子である。早速小さい狭い自動車にこの大和撫子のお二人と心安く同乗して、永井君が運轉して半日のドライブと出懸けた。

「友あり遠方より來る又樂しからずや」といふが、餘り樂しくもあるまいに突然風來の旅客に厄介を投げかけられて、一日仕事を休んで家族まで窮屈なお相伴さして、旅情を慰めて呉れる情操の有難さ。友なればこそと感謝に堪へない。學窓の親しみ左程深くもなかつたのに！。

ホリウッド

郊外名所を彼地ちと觀光ドライブの後、終りにホリウッド(聖林)に落ち着き、映畫の世界的本場に足跡を印した。二時半に始まるチャイニーズテアトルに這入つて、先づ美しいウエーターの凡てが純支那服の美装には面喰つて一本參つた。絢爛のダンス、濃艶のラヴシートの種々相に驚き「チャックとメリー」を面白く見物した。五時に果て、ドライブと觀光に忙しく、中食ぬきにしてイーグルスツリートの永井君の住宅に歸つた。永井君の親戚や友人と一緒に支那料理の晚餐を御馳走になつた。相客の中に近く太平洋を横濱に向ふ私の乗る天洋丸の船員某も居て歡談した。八時頃御一同に別れを惜しんで辭去、永井君にホテルまで見送つて貰つた。風呂に入つて日記を書いて感謝して休んだ。衣斐氏の置手紙に一日早く出發したとある。西洋婦人が留守に私を訪ねたらしいが名前も分らず心當りもなかつた。

十一月二十九日 金曜日 (晴 天)

朝早く起きて身支度、聖書使徒行傳を熟讀して深く教へられ、祈禱を續け過去の行旅の御愛護を感謝し、將來の歸朝一路平安、家郷の無事安泰を熱願した。町に出てトランクなど買ひ足して荷造りをし、出發の準備に午前中を暮した。午後一時日本人街川福料亭に行つて中食した。

テンブラや味噌汁を美味しく食べた。チップ共に二弗半である。

日本新聞社に行つて永井君に禮詞、別れの挨拶をした。東京在住の嚴父に親書を託せられた。女流宗教家で名聲鳴り響くマツク某の教會を見に行つた。宏大な會堂で何千人を容るゝに足る豪壯なものに見えるが、實は偽物インチキだつたらしい。何處の國にも偽豫言者やインチキ宗教家は出来るものらしい。右のマツク某は虚偽の死を装ふて世間を欺し、愛人を携へて蹈晦した事實が暴露して、信者はロアングリの體といふことである。トーマスツク社に行つて紐育以來始めて十月二十六日附の大阪からの手紙を受け取つた。南太平洋鐵道の寢臺列車で午後六時十分ロスアンゼルスを出發した。名前は大きいが無愉快な汽車で安眠が出来んで困つた。

ヨセミテ公園

十一月三十日 土曜日 (晴 天)

朝六時半汽車で眼を覺ますとガタ／＼汽車は歩むやうにヨセミテヴァレーの山地を進んで不愉快だが、米國著名の國立公園ヨセミテの勝景を目指して居るのだから我慢せねばなるまい。十時頃終點エルポータル驛に到着して此處で下車、自動車に乗り替へて四十五分でヨセミテ公園に着いた。アワニーホテルといふ大溪谷の自然密林中に在る清雅莊麗なホテルである。

アワニーといふ日本語韻に近いこのホテルは、建築や室内が何となく日本式の優雅さがある。英國式の落着きもあり、米國式の華美も手傳つて居る。兎に角この千古の山谷の中にある日英米合作の優秀なホテルに、一夜の雨露を凌ぐことはこよなき快適の醍醐味である。先着一泊を済ました衣斐、岩波兩氏に又會ふて、ホテルで中食を共にして兩氏の出發を見送つた。一時半からサイトシーンカーに乗つて近所の名所巡りをした。巨大な花崗石や山の如き奇岩が聳立して、大陸の雄大さを語つて谷間に千年の老杉、老檜等が幽邃なる静寂の中に天地の悠久を囁いて居る。道路坦々ドライブウエイの整美は米國の富と文化を表はして餘す所がない。放飼の熊公と仲善しになつて、林間に一時を暮すのも米國式の餘興であらふ。

清閑の山莊ホテルに連日の疲勞を醫し、積る旅塵を拂ふて一夜の休養に元氣を加へ、米國にサヨナラしていざ太平洋に船出せんか！

十二月一日 日曜日 (晴 天)

ヨセミテ公園のアワニーホテルの閑靜な部屋に朝を迎へ、身支度、朝拜祈禱例の如く、朝食後井口君夫婦と三人で公園内を散歩し博物館を參觀した。植物、動物、鳥類等種類多く蒐集して、千古の大溪谷の林間で見ると一層見榮えがするのである。

十二時四十五分の自動車でエルポータルに出て汽車に乗り、三、四時間を費しマースド驛に乘替へ、六時四十五分の本列車で桑港に向つた。
夜行汽車で窓外の展望も利かない。聖書使徒行傳とローマ書と可林多書を車中で讀破し了へた。パークレーやオークランドの町を経てフェリーボートでシスコに灣内を渡航するのであつた。十時五十分シスコに到着してホテルセントフランシスに投宿した。

サンフランシスコ

十二月二日 月曜日 (晴 天)

今朝元氣良く起き出て身支度、朝拜を済まして今日の要事を見渡すと

日本からの手紙を受取る事

巴里からの送品を受取る事

紐育からの荷物を受取る事

堂本商會を訪問する事

見物に先ちて是等の要事を楽しんで片附けるのである。朝食後太郎君と共に市中に出た。イース

トマン寫眞店でフィルム六本夕刻迄にデヴェロープ仕上げを約束した。

中原寫眞機店で井口君が高級な映寫機を買つた。隣りに在るN・Y・Kに行つて山本支店長と面談した。

太平洋渡航切符の手續を了した。

各地からの手紙を受取つた中に、歸朝先發の江藤氏から細々と一別以來の旅行々程や失敗談を報告して種々注意を與へられた。紐育から送つた荷物を郵船の同窓鶴田君に頼んでステーションで受取つて、天洋丸に積込んで貰ふやうに切符を渡した。フロントスツリートにあるノース、アメリカン會社に堂本譽之進氏を訪ねて初対面した。七十有餘の老翁ながら壯者を凌ぐ鏗鏘さで、一見多年の健闘勇奮の歴史を物語るものがある。在留邦人中の先覺大成功者で立志傳中の人である。幸に此人の甥に當る堂本頼次君が親しい同窓の友であるのと、尙ライオンの小林家に令嬢を嫁がして親戚の間柄であるから、井口君夫婦としても私としても、お蔭で暫ならぬ温情を以て歡待を辱うし得たのである。北海道の蟹の罐詰を始め、日本の罐詰對米輸出事業の今昔を聽かされた。實は今日の輸出品の優位を占むる蟹罐詰の發明開發こそは、この堂本翁に由つて成し遂げられたのである。日本の對米輸出問題や大富豪資本家の横鎗横暴振りや、日本の特許權保護法の不完全等に就て苦心經營の體験を以て談論風發盡くる所を知らず、大に教へらるゝものがあつた。一應辭去してカフェテリ

ヤに行つて中食を済まし、ホテルに歸つて休息した。午後六時ホテルまで堂本氏の迎へを受けて共に日本俱樂部に招ぜられて晚餐の饗應を頂いた。食前に感謝祈禱を捧げて御馳走になつたが、堂本翁非常に喜んで良いお祈りを謝すると言つて堅く握手された。さすがは老翁も信仰の人であつて、會心の極みであつた。第二世子譽之(？)氏も共に参加せられて懇談裡に食卓を圍んだ。

譽之君に日本來遊を勧めると、日本語が話せぬから勉強中だとの事、成程米國で生れて小學から大學まで生えぬきのアメリカ人で育つたのであるから、邦語が話せず英語しか饒舌られぬのも無理のないことだ。流暢な發音外人と異ならぬ英語には感心羨望に値するが、日本語が話せぬと來ては差引すると情ないことであらう。

九時頃ホテルに歸つて、井口君新調の映寫機で十六ミリを映寫して三人で楽しんだ。

十二月三日 火曜日 (晴 天)

朝七時起床、例日の通り身支度朝拜を済まして愉快に朝食を了し、今日は三人連でサイトシーンカーを雇ふて見物に廻つた。

市中の大建物を手始めに飛行場、兵營、金門灣、金門公園、支那人街、高臺展望、リンコン公園及びパトリエ等を次々に観光した。太平洋岸の波打際をドライブして海の彼方に故國横はると思

ひては、座ろに望郷の感深きものがあつた。支那人町で中食をして井口兩人をホテルに連れ歸り更に一人で市中に出た。堂本氏に挨拶御禮に行つて買物に走り廻つた。夜は郵船會社の同窓鶴田君に招かれて、日本俱樂部で晚餐を饗せられた。食後活動寫眞を見て市中散歩、十時頃ホテルに歸つて休んだ。

太平洋を故國へ

十二月四日 水曜日 (晴 天)

アメリカを去る日 一天晴れ 渡り

今日は日本へ向ふ船に乗る日で心も躍る。六時起床朝拜祈禱を終りて經巡つて來た各國の訪問先厚意を受けた先々にクリスマス、グリーンテングの書状を出した。デパートに走つて必需品、最後の買物をしてホテルを勘定して、三十六番棧橋に行つて天洋丸に乗り込んだ。百二十六番の獨房船室を配せられて幸先よかつた。恰度十一月十五日附芦屋からの手紙も手に入つた。

荷物も皆揃ふて居る。キャビンボーイも今井といふ同姓である「大船に寝て居る祖國かな」と唄ひつゝ氣も勇む。天洋丸は横濱に向け正午に出帆した。堂本譽之進翁外數名に見送られて桑港

を船出した。

元滿鐵總裁林博太郎氏夫妻令嬢、元東京市長永田秀次郎氏父子、大村海軍中將、變り種には上山草人等の知名の船客同船である。芦屋家元に電報して桑港船出を知らした。半歳前神戸を鹿島丸で船出するときは涙で別れたが、今日の船出は只嬉しくて心が勇むばかりであつた。十二時半晝餐のドラが鳴る。岩波、衣斐、平田、永倉の諸君と會見して快談、放話は盡きぬ。夕刻より霧が深くなつて警笛連呼の中に船は夜の海を西へくと進航するのであつた。

十二月五日 木曜日 (晴 天)

昨夜は夜寒を覺へて安眠出来なかつたが、朝六時元氣よく起床した。

風呂に入り身支度を済まし、朝拜祈禱今朝は殊更に感を深うした。

霧も晴れ波も静かであるのは何より嬉しい。これから樂しき航海生活が布哇を経て二十日横濱に入港するまで續くのである。海は太平洋、船は日本の天洋丸、船客は殆んど同胞の洋行歸りばかり懐しい富士の山を一日も早く眺めたい人ばかりである。

十二月六日 金曜日 (曇 天)

六時起床海は油を流したやうな静かきで、平安で僅かなウネリを感じるばかり。大阪から無線電信が来た。一路平安を祈る。「一同無事安心せられたし」と只二語のコード！實にうれしい。有難いことである。

太平の波静かなる安けさは

神の御守りかしくみてこそ

朝は聖書の勉強と散歩に暮した。

晝からは永倉教授、大村中將、上山草人達と劍道談に花を咲かし、お互に武勇譚を出し合はした。

井口君の部屋でフィルム六本の試見をした。美也子さんにマニキュアをして頂いた。夜は甲板で船客慰安の活動寫眞「日本紹介」を見た。栗島澄子の水々しい丸髻姿の美容を太平洋の真中で見るのも捨て難い一興であつた。

十二月七日 土曜日 (晴 天)

朝六時起床身支度朝禮例によつて例の如く、食事後甲板の電信室に行つて技手と懇談して地文の話聞いた。今日は日本では八日である。桑港出帆後四日目で波は静かでウネリが少しある。溫度が高くなつて合服を着る位。日本朝六時、ロンドン晚九時、桑港午後一時、布哇朝十時半が同時刻

である。船が東經百八十度線を通過すると一日飛び越すことになるのである。晝からデツキゴールを遊んで運動した。夜は衣斐氏と美也さんと三人でカルタを遊んで早く就床した。

十二月八日 日曜日 (晴 天)

今日は上天氣で波も平靜である。

風呂に入り身支度を整へ、聖書に親しみ感謝禱を捧げた。天洋丸の一路平安と船客一同の安全を靜に祈つた。朝食に味噌汁、目差し、海苔、佃煮、鰹の鹽辛、雲丹、大根おろし、梅干、おこし等日本の家居と同様にヴェライテーがあつて御飯がおいしく頂ける。上山草人と食卓を圍んで居て同君が珍談奇話を投げ出した。

上山草人

映畫ファンでない私は上山草人なる名前さへ知らぬ。桑港で出船の時に草人見送りで賑はつたので、草人なるものを井口君から聴かされた位である。食卓が一緒なので朝晩顔も合ひ、話も合はして草人の尖つた顔と私の丸い顔がよく一座を賑はして居たが、ふと草人と私との古い因縁話が草人の口から暴露した。

私が香料屋で、東京の永廣堂支店の事、私のヒゲが十九年前はカイゼル式にハネて居たことまで能く知つて居るといふから、驚いてよく聞くとこうである。

草人君が二十年前まだ名を成さぬ馬の足時代に、内職に眉墨屋をやり美顔化粧術をやつて居た時私共の結婚披露を東京で行つたものだ。十九年前の花嫁ゆう子の美顔化粧に名髪結伊賀とらの紹介で、永廣堂支店に招かれて顔を作つたといふことがわかつた。其時髪の濃かつた花婿の口髭が長くハネ上つてカイゼル式に見えたといふのを聞いて、膝を打つて肯づかざるを得なかつたのである。振るつた奇遇に大笑ひした。今日も甲板展望、運動、午睡等平穩なる船路を楽しむ。

十二月九日 月曜日 (晴 天)

六時起床身支度、禮拜、聖書、祈禱大いに努めた。大阪から電報が来た。

ミナブジオカヘリヲタノシミマツイマイ、朝食後日當り良き甲板を獨り散歩して黙思靜觀に耽つた。

海上はカーム、又はフレツシの微風、漣波の平安を幸せらる。布哇が近くなつて暑氣も増し夏服を着た。

午後三時間も晝寝した。

布 哇

十二月十日 火曜日 (晴 天)

四時頃起きて洋上に布哇島の灯を見た。六時に布哇の港に到着した。
八時朝食、九時上陸である。

早速岩波、衣斐、井口夫婦と五人でドライブして緑樹色美しき島の名所見物に廻つた。第一印象としては

- 一、緑の色濃く百花の色美し
- 二、空気が清澄なり
- 三、氣候温暖内地の八月末九月頃の感あり
- 四、道路完備
- 五、日本人多し
- 六、海潮色澤鮮美なり

三時間ばかりの後望月といふ料亭に這入つた。先づ日本式風呂に入つて浴衣がけの気分が千金の

價値、料理も船上とは又格別である。

三時半に船に歸り四時出帆するのである。布哇に置土産の都々逸を望月の女供に贈りて曰く。

布哇良いとこ常春島よ

年中みどりで花ざかり

緑り滴る布哇の島ぢや

花の色香はなほ深い

西に歸るか東に行こか

いやじや巢造ろ布哇島

フラ／＼ダンスを笑ひなさるな

主のお腰もふらく／＼よ

夕焼小焼美しき西の空を眺めながら横濱さして天洋丸は急ぐ。

十二月十二日 木曜日 (晴 天)

朝六時起床風呂に入り、身支度後甲板に出て朝拜の祈禱例の如く、聖書、彼得前後書ヨハネ第一、
二、三書、ヤコブ書を讀了した。十時に非常ポート練習があつた。救命具を着けて従順に勇ましく

Bデツキに参集した。

今日は夕食は早くから甲板上で鋤焼會が開かれた。上戸はメートルを上げる。下戸も和樂の席に手を拍つ。

太平の海にすきやき上機嫌

上戸は踊る下戸は手を拍つ

十二月十三日 金曜日 (小雨)

朝六時起床海は白波がチラツいて居るが、靜波で天洋丸はピクともせず颯々と波を切つて走つて居る。

朝食後本郷氏と一番、肥後氏と一番將棋を指して時を送つた。社交室に入つて蓄音器を聞いた。村上海軍大佐が乃木大將傳の浪花節を掛けて居る。靜かに後ろに座つて聽いて居ると、大佐が頻りに目を拭いて居る。私も共に涙を流した。隣りの遊戯室では林伯令嬢や永田令息や草人や太郎君等が麻雀の競技に耽つて居る。今日正午船の位置は横濱まで二、四一二浬、溫度は六十六度、今夜九時半一八〇度線を通過するのである。

一八〇度線

十二月十五日 月曜日 (晴天)

昨夜一八〇度線を通り越したので、今日は十四日の土曜日を一日飛び越へて、十五日の日曜であつて、横濱着二十日といふ呼聲が一日早くなつた譯である。

嬉しさの熱は一百八十度

一日飛び越す今日ぞめでたき

矢の如く歸る心の通ひてか

一日千秋飛び越へにけり

身支度を整へて朝拜、ヨハネ黙示録を讀んだ。井口昌藏氏より電報があつた。

洋上の慰安

午前中慰安運動會があつた。種々な競技で大賑ひである。無藝大食の私も引つ張り出されて豚の目入れて笑はれた。夜は船員諸君の演藝會が本式の舞臺懸りで開かれた。

素人とはいへ海千河千の本性、驚き入つたもので、手品、漫才、落語、喜劇等々の大詰大壓巻の安來節が出た。

私のテーブルボーイが三味線の伴奏、唄手が私のバスボーイの小池君、五紋附の禮装晴々しく朗々たる美音好調は、實に驚異に値し拍手喝采鳴りも止まざる人氣であつた。

サーヴィスのチップよりこの方の祝儀が張りはせぬかと思はる。一呵

平安の歸朝

十二月十六日 火曜日 (晴 天)

今日は波は静かになり追風の状態となつて速力を増すといふ。
身支度後電信室に登つて電報を打つた。

一めぐり世界の旅を果たしつゝ

波路やすけく歸るうれしさ

天満教會へ

ふじの姿を見る嬉しさを

思ひや荒海なんのその

木村牧師へ

上山草人氏、衣斐氏、平田徳太郎博士、宮崎氏、肥後俊彦氏等と親睦歡談に時を送る。奈良橋茂三郎君より無事御歸朝を祝すと電報が来た。

いよ／＼横濱が近づく。中食後二等船橋に行つて米國移民某と懇談した。夜は讀書、一茶の句集を平らげた。永田青嵐宗匠も同舟だが一向風懷に接するの榮を得ず、只一席一等船客有志で歐米旅行視察漫談を承つた。足跡を印せぬ露西亞の實狀を聽聞して大いに益した。

十二月十七日 水曜日 (晴 天)

朝六時起床身支度後甲板で禮拜祈禱に専念した。電報が澤山来た。

一路平安歸朝を待つ

名古屋 常治

無事御歸朝を祝す

大野、大橋、小石

樂しき故國への御航海を祝す

山本 信太郎

返電の中

追風に吹き送られて歸朝かな

入船に東風吹き添ふて歸朝かな
常治兄へ

追風の吹いてうれしや後三日
井口氏へ

船員へのチップ據金配付に就き世話をやく、一等船客五圓宛集めて左の通り渡した。

一等客	39人	
	¥5 × 39 =	¥195
林 大村 永田閣下		¥60.
20圓宛		
		¥255.
<hr/>		
Band		30.-
Theatre		50.-
Deck		80.-
2Steward		60.-
3Steward		35.-
		¥255.-
<hr/>		
Cabin boy		15.-
Table "		15.-
Bath "		5.-
Shoes "		1.50
Smoking "		2.-
		¥38.50

個人としては別に各自にチップをやつた。
午後三時林伯爵と大村中將の講話があつたが、午睡時間で參會せず失敬した。

十二月十八日 木曜日 (晴 天)

朝六時起床、身支度甲板の一隅にて禮拜、祈禱を捧げ聖書を熟讀す。
電報を受取つたので狂句の返電した。

アリガタヤマツタカヒアリアスノハレ
ミツカメダトシデユコウカワシガクニ
オオノサンコイシトイマイオオハシヤギ
京都 松田氏へ
龜田 幸川氏へ
大野大橋小石氏へ

今日は海波涼しく陸地近き冬の海としては珍らしき好天氣で、速力もよく四〇四浬走つた。夜フイルムの試験をして早く休んだ。

十二月十九日 金曜日 (晴 天)

朝六時起床、禮拜、祈禱例の如く朝食後電報四本打つた。天氣晴朗にして波靜かなれど船客の胸高鳴りて一同の歡喜言ふばかりなしである。

午後三時午睡例の如し。夜は最後の晚餐會で御馳走大盛りであつた。運動競技會の賞品授與があつた。

林伯令嬢、上山草人、井口夫人、宮崎氏達が人氣的で澤山の賞品をかち得られた。荷物の始末をして早く休んだ。夜に入り風雨少し強くなつた。

十二月二十日 金曜日 (雨天)

朝四時起床して禮拜、感謝、祈禱を捧げた。本旅行中新約聖書全體を通讀する初一念を果たして匆忙の旅の中に見事に精讀し去つた。

船は房總の沖横濱近くなるのに雨晴れず、晴れの歸朝も臺なしで、露船などが二、三艘姿を風波の中に現はして、陸地近きを語るのみで富士の姿も陸地の影も見へない。「世界各国めぐつて見たが、富士の山もつ國はない」など、誇つて快晴の横濱歸着を楽しんで居たのに、雨と霧に邪魔されて横濱入港は夜に入りて、暗い棧橋には出迎人の提灯が右往左往であつた。税關萬端首尾よく運んで、出迎の家族店員友人と握手歡呼したのは夜八時過であつた。

一めぐりめぐりて元の日本かな
神様と二人連なりおらが旅

半歳の世界旅行、平安無事に遂行し得た生命の護符を記して茲に筆を擱むる。

生命の護符

我子よ汝の父の誠命を守り
汝の母の法を棄つる勿れ
常にこれを汝の心にむすび
之を汝の頸に佩びよ
之は汝の行くとき汝を導き
汝の寝るとき汝を守り
汝の寤むるとき汝と語らん
それ誠命は燈火なり
法は光なり
教訓の懲治は生命の道なり

昭和十一年十一月八日印刷納本
昭和十一年十一月十一日發行

〔世界一周旅日記〕
(定價金壹圓五拾錢)

著作兼發行者 **今井安太郎**

兵庫縣武庫郡精道村蓋屋
字蘆原壹千壹百四拾五番地
永安莊 振替大阪九五一九五番

印刷者 **岡本三省**

大阪府南區饅谷中之町參拾九番地
大阪府南區饅谷中之町參拾九番地

印刷所 **株式會社中村盛文堂**

大阪府東區博勞町二丁目五番地

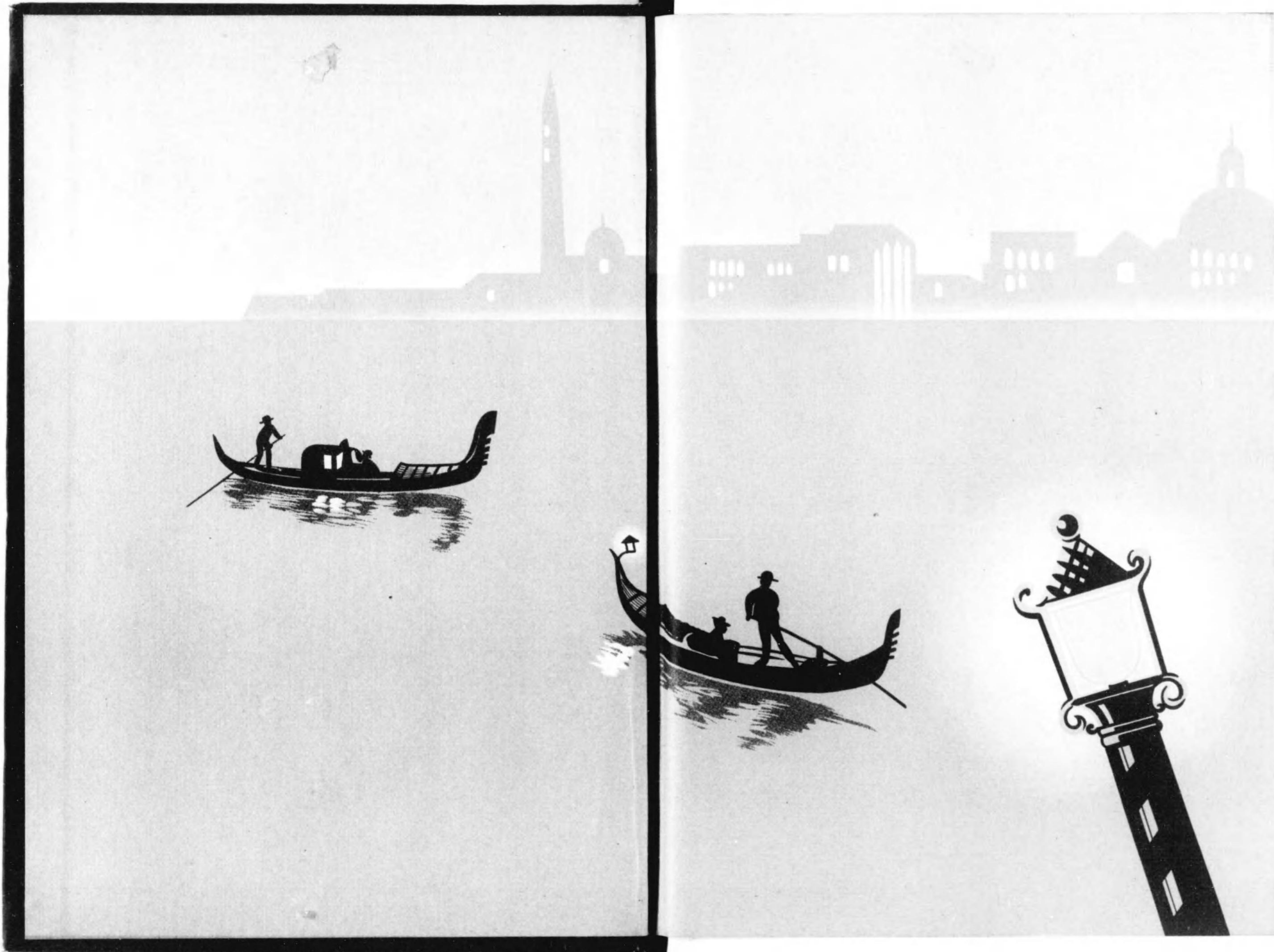
發行所 **大阪化粧品商報社**

大阪府西區靱上通一丁目三一番地

賣捌所 **福音社書店**

振替大阪一九二二番 電話土佐堀一六六九番
三一八六番





終

